

# 山科区観光振興調査報告書

京都橘大学・山科区役所

# 目次

はじめに	1
<b>1 山科区の地域特性</b>	<b>2</b>
(1) 沿革	
(2) 地勢	
(3) 交通	
(4) 産業	
<b>2 山科区における観光の現状</b>	<b>5</b>
(1) 観光振興推進組織	
(2) 集客力のある行事	
(3) 地域資源の発掘と活用	
(4) 地域特産品の開発	
<b>3 山科区における観光客の意識</b>	<b>7</b>
(1) 調査趣旨	
(2) 調査方法	
(3) 清水焼団地における調査	
(4) 秋の観光シーズンにおける調査	
(5) 総評	
<b>4 山科区における観光資源</b>	<b>16</b>
(1) 調査趣旨	
(2) 調査方法	
(3) 山科区観光資源の分類	
(4) 山科区観光資源の分析	
<b>5 山科区における観光の特性</b>	<b>23</b>
(1) 強み	
(2) 弱み	
<b>6 課題解決に向けた取組</b>	<b>25</b>
(1) 情報発信力の強化	
(2) 観光産業の強化	
(3) 観光基盤の強化	
おわりに	29
資料編	31

## はじめに

観光とは、四書五経の一つ「易経」にある「国の光を観る」という言葉を語源とし、「歴史や文化の輝きを観る」というのが本来の趣旨である。

現在、国際観光客数は、8億人を超え、過去最高を記録している。また、国内に目を向けても、団塊の世代の大量退職、少子・高齢化や余暇時間の増大、趣味の多様化を背景に、歴史探訪・生涯学習の機運が高まる中、山科区においても、「観光」という言葉の本質に立ち戻り、「その土地を光り輝かせる」取組をしていくべきではないだろうか。

全国有数の観光都市である京都市では、平成12年に平成22年を目標とする「観光客5000万人構想」を宣言し、現在は平成18年に策定した「新京都市観光振興推進計画」に基づき、観光客誘致に向けた様々な施策、事業を実施している。

山科区においてはこれまでから様々な団体・区民が観光振興を目的に活動を展開していたが、平成18年9月、観光の振興を通じてまちづくりの推進を図ることを目的として、区内の幅広い団体の参画の下、「おこしやす“やましな”協議会」が設立され、観光振興のための活動を展開している。

今後、協議会の活動を有効なものとするには、観光面から山科区の置かれた状況や基礎的なデータなどを把握するとともに、課題を分析・検討し、それらを踏まえた効果的な事業を展開していく必要がある。しかしながら、京都市における観光調査は、全市域を対象としており、山科区に特化した基礎的なデータは、把握できていないのが現状である。

そこで、今回、京都橘大学と山科区役所の共同調査として、山科区の観光における基礎的なデータの収集を主目的に、観光における山科区の現状の把握、課題の分析、それらに対する解決策の検討などを行った。

今回の調査は、取りまとめられた結果を広く公開することを通じて、協議会をはじめとした観光振興を目的とした団体・区民の活動に対する支援を行い、そのことにより観光振興によるまちづくりに資することを目指している。



春 琵琶湖疏水の桜



夏 双林院（山科聖天）の手水鉢



秋 日向大神宮の紅葉



冬 大石神社の雪景色

# 1 山科区の地域特性

## (1) 沿革

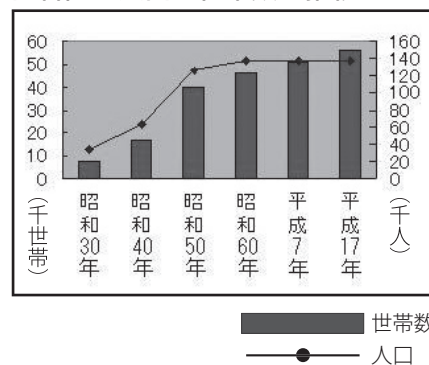
山科区に人が住み始めたのは旧石器時代と言われており、区中心部にある中臣遺跡からは石器が発掘されている。飛鳥時代の大化改新で知られる中兄大皇子(天智天皇)、中臣鎌足(藤原鎌足)は山科にゆかりが深く、鎌足の邸宅「山階陶原家」と、興福寺の前身「山階寺」は区内にあったと考えられている。平安京遷都以降は、都の東の玄関口として重要な位置を占め、勸修寺や随心院などの寺院が建立され、その歴史を現在まで伝えている。中世には、一向宗の蓮如により、大規模な寺内町を形成する山科本願寺が形成され、大いに繁栄した。また、江戸時代には、大石内蔵助が討入り前に隠れ住んだと言われており、区内各所に赤穂義士にまつわる史跡が多数残っている。更に、明治時代には、東京遷都後の京都に活力を取り戻すことを目指し琵琶湖疏水が建設され、今も京都市民の生活を支えている。

昭和6年に宇治郡から京都市東山区に編入された山科には、昭和26年に東山区役所山科支所が開設された。昭和33年以降、ベッドタウンとして急激な人口増加が始まり、昭和51年に東山区から山科区として分区し、平成18年に区誕生30周年を迎えた。

平成17年 国勢調査

調査対象	京都市	山科区
人口(人)	1,474,811	136,670
男(人)	703,210	65,206
女(人)	771,601	71,464
世帯数(世帯)	653,860	56,429
高齢化率(%)	22.4	18.9

山科区の人口と世帯数の推移



## (2) 地勢

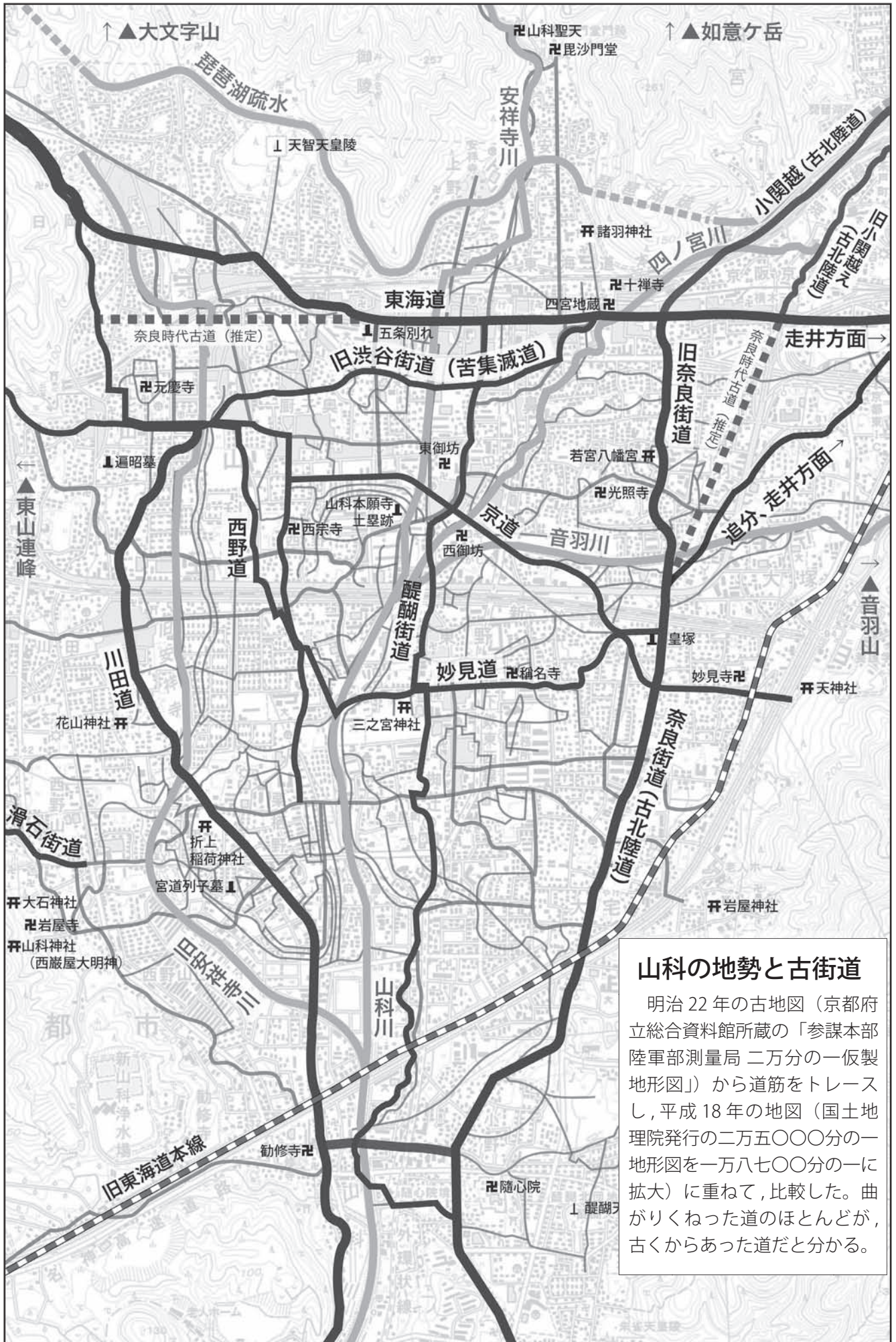
山科は京都市の東端に位置し、西側で東山区、南側で伏見区の醍醐地域、東側で滋賀県大津市に接している。北は大文字山、如意ヶ嶽、東は音羽山、西は東山連峰と三方を山に囲まれた盆地であり、区の北部から南部に流れる安祥寺川、四ノ宮川、音羽川などの川は、区南部で合流し山科川となる(山々及び河川についてはP3参照)。また、区の北部には明治時代に整備された琵琶湖疏水が流れている。



山科盆地全域

(平成18年国土地理院発行地図を縮小)





### 山科の地勢と古街道

明治22年の古地図（京都府立総合資料館所蔵の「参謀本部陸軍部測量局二万分の一仮製地形図」）から道筋をトレースし、平成18年の地図（国土地理院発行の二万五〇〇〇分の一地形図を一万八七〇〇分の一に拡大）に重ねて、比較した。曲がりくねった道のほとんどが、古くからあった道だと分かる。



### (3) 交通

山科は、古くから旧東海道をはじめ、京都と東国を結ぶ交通の要衝の地として栄えていた（P3 参照）。

現在も山科駅は、JR 線（東海道本線、湖西線）のほか、京都市営地下鉄東西線、京阪電車京津線が交差する京都の東の玄関口としての役割を担っている。JR 山科駅は京都駅から約 5 分の距離にあり、京都市内では京都駅に次いで利用者が多い駅である。区内を縦断している地下鉄東西線は、区内に 5 駅（御陵、山科、東野、柳辻、小野）があり、西側は三条京阪、烏丸御池などの市内中心部、太秦天神川など市内西部と、南側は伏見区醍醐地域を通り、宇治市の六地藏駅で JR 奈良線と結ばれている。京阪電鉄京津線は滋賀県大津市と京都市内を結んでおり、御陵駅から地下鉄東西線に乗り入れている。一方、高速道路については、区内に名神高速道路の京都東インターを有するほか、平成 20 年度には京都高速道路「新十条通」が開通する予定であり、山科区内の車の流れが大きく変わると予測される。



山科駅周辺  
ロータリーと枝垂桜

区内鉄道駅乗客数 (単位：千人)

路線	駅名	年間	一日平均
J R	山科	11,023	30.2
京阪	京阪山科	838	2.3
地下鉄	御陵	2,772	7.6
	山科	6,846	18.8
	東野	1,770	4.8
	柳辻	2,605	7.1
	小野	1,184	3.2

「京都市統計書平成 19 年版」から抜粋  
JR、地下鉄は平成 18 年度、京阪は平成 18 年乗客数

#### 【山科区の名街道】

奈良街道	奈良時代には四ノ宮、小関越えで大津京へ向かうルートであったと推定される。
小関越え	古くから北陸と畿内を結んだ。四ノ宮から藤尾を経て、長等山、三井寺へ。
川田道	奈良時代の道。後に元慶寺、花山稻荷から勤修寺へ社寺参拝の道として発達。
東海道	長岡京の頃の道。江戸期には、幕府と都とをつなぐ主要街道として発展。
渋谷街道	六条通から東山を越える平安時代の道。花山、厨子奥を経て四ノ宮へ。
その他の街道	東西に勤修寺、随心院を結ぶ道のほか、皇塚への京道や妙見寺への妙見道。南北には、醍醐街道、西野道などがある。

### (4) 産業

山科区は、昭和 37 年に京焼・清水焼の生産団地が建設され、現在も生産から販売まで行う拠点施設として活況を呈している。また、京仏具・扇子の生産団地も有している。そのほか、日本有数の砥の粉の産地であり、現在も製造工場が稼働している。その一方、伝統産業の技術を活用し、金属箔、金属粉などを取り扱う先端産業も存在しており、伝統産業と先端産業が共存している地域と言える。

農業は、平野部の肥沃な土地を活かして、きゅうり、大根などを中心に生産されている。また、京の伝統野菜である山科なすの生産地でもある。そのほか、区南部においては、観光農園が運営されており、ぶどう、いちごなどを観光客向けに栽培、販売している。



清水焼 抹茶茶碗



砥の粉 粘土状の原料

## 2 山科区における観光の現状

### (1) 観光振興推進組織

京都市において、観光振興を担う組織としては、「社団法人京都市観光協会」が存在するが、この協会はいくまでも京都市全域を対象に活動しており、山科区独自の観光振興を図るための母体となる組織は、これまで存在しなかった。

このような状況の下、平成17年から、京都商工会議所が区ごとに設置した地域経済懇話会観光振興部会において、観光に関する調査、検討が行われた。この部会では、観光資源のリストアップ、京都市の観光実態と今後の戦略についての学習、駅前観光案内所設置に関する先進事例調査などが進められ、平成19年3月に最終報告書が取りまとめられた。

平成18年9月には山科区の観光振興を目的とする組織「おこしやす“やましな”協議会」が発足、平成19年9月には特定非営利活動法人格を取得し、観光振興活動を展開している。

### 京都市の観光振興

#### 社団法人京都市観光協会

- ・京都市全域を対象
- ・山科独自の観光組織は特になし

平成17年

#### 地域経済懇話会 観光振興部会

- ・観光資源のリストアップ
- ・京都市の観光実態
- ・今後の戦略についての学習
- ・駅前案内所設置に関する調査
- ・平成19年3月最終報告書

平成18年

#### おこしやす"やましな"協議会

- ・平成18年9月発足
- ・平成19年9月 NPO 法人格取得
- ・観光振興活動の展開

### (2) 集客力のある行事

山科区においては、祇園祭をはじめとする京都の三大祭のように、全国的に知名度が高く、集客力のある大きな行事はない。区内で行われている比較的集客力の高い行事としては、春に随心院で行われる「はねず踊り」、夏と秋に清水焼団地で行われる陶器に関連した「陶器まつり」と「楽陶祭」、冬に大石内蔵助ゆかりの地として、義士に扮した区民が毘沙門堂から大石神社を目指して行進する「山科義士まつり」が挙げられる。

また、春の桜の時期には、山科疏水や毘沙門堂、大石神社、勧修寺を中心とした地域に、秋には紅葉の見所(毘沙門堂、日向大神宮など)に多数の人出が見られる。

このほかにも、区内の各社寺で行われている伝統行事や、商店街を中心に取組まれている様々なイベントなど、集客力を持ち得る行事が数多くある。



はねず踊り

3月最終日曜に随心院にて開催



山科義士まつり

12月14日に義士の行列

### (3) 地域資源の発掘と活用

山科区役所と区民、京都橘大学などの協働により、ここ数年、地域資源の発掘が進められており、成果として、山科の古い写真を集めた写真集、散策マップが発行されている。また、京都橘大学では学生が主体となり、商店街や清水焼団地周辺のマップや情報誌を作成している。

山科区老人クラブ連合会では、春と秋の観光シーズンの土・日曜日にJR山科駅前において、観光客に対する観光案内活動、観光マップの配布などを行っている。



モノクロームヤマシナ  
平成 18 年発行古写真集

### (4) 地域特産品の開発

清水焼、仏壇仏具、扇子などの伝統産業の団地や、竹産業では、新たな山科ブランド(商品)の開発が活発化している。清水焼団地では、平成 18 年度に京都橘大学の学生の発案・デザインによる新商品開発、平成 19 年度には作家が制作した試作品の市場調査を行っている。また、同年度には、清水焼団地などの生産関係団体と京都商工会議所、山科経済同友会などとの協働による「京都山科観光プロジェクトの戦略的展開事業」(経済産業省の補助金制度適用による)の取組が始まり、イタリアから招聘したデザイナーと開発した試作品の品評会を、東京と山科で開催している。



山科発新ブランド「en」  
立食パーティーメニュー用の貸し出し食器として、木製、陶磁器製のスプーン、平皿などを作成



### 3 山科区における観光客の意識

#### (1) 調査趣旨

これまで山科区を訪れる観光客を対象にした意識調査などが行われたことはなかった。しかしながら、観光の現状や課題を分析するに当たっては、実際に山科区を訪れた観光客の生の声を聴取し、その意見を参考とすることが必要不可欠である。そのため、区内で観光客の多い時期に絞り、観光客の意識を探るアンケート調査を実施した。

#### (2) 調査方法

7月と10月に清水焼団地で行われる「陶器まつり」及び「楽陶祭」と、秋の観光シーズンに、観光客の多い区内の3箇所(毘沙門堂, 山科駅, 随心院)において、直接観光客から聴き取る方法により行った(アンケート用紙は資料編に掲載)。

#### (3) 清水焼団地における調査

##### ア 実施概要

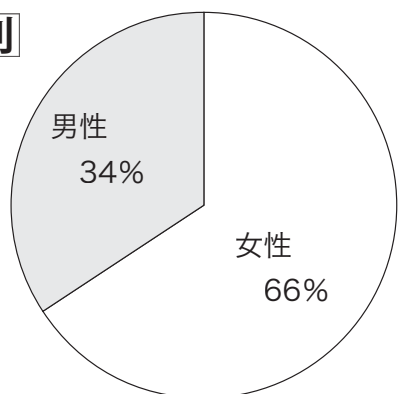
- ① 実施日:平成19年7月27日(金)～29日(日),10月13日(土)及び14日(日)
- ② 実施場所:清水焼団地「陶器まつり」及び「楽陶祭」会場

##### イ 回答数

実施日	7月27日	7月28日	7月29日	10月13,14日
回答数	23票	106票	52票	64票
	合計			245票

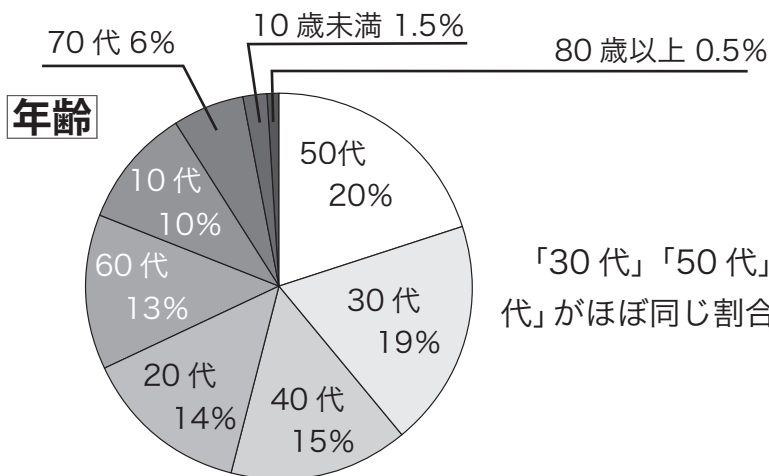
##### ウ 調査結果

###### 性別

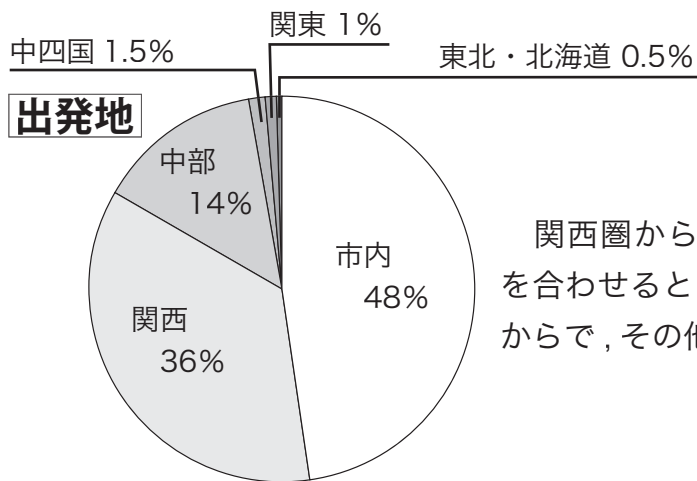


「女性」の来訪者が3分の2を占めた。陶器まつり、楽陶祭ともに、「女性」の多いイベントであった。

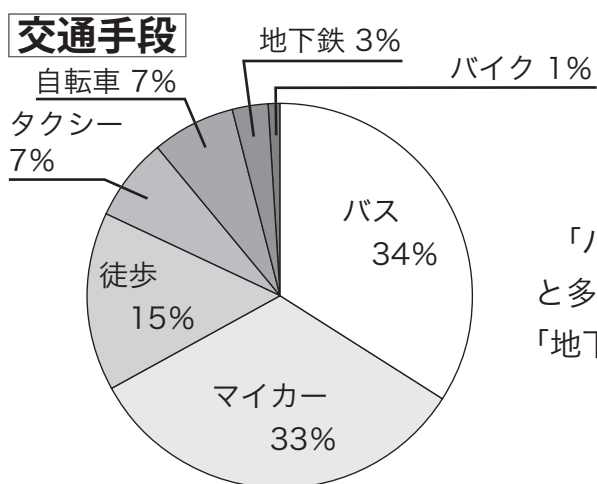
###### 年齢



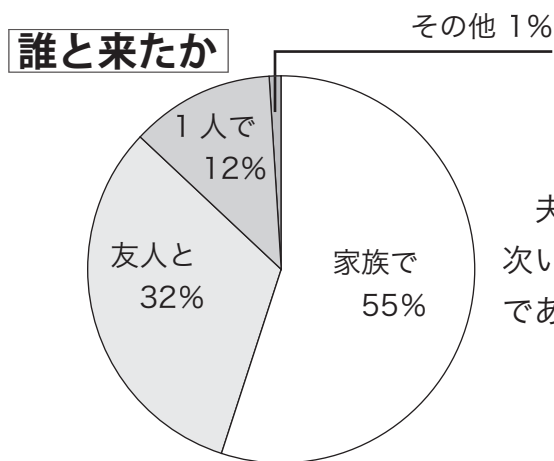
「30代」「50代」が多く、次いで「20代」「40代」「60代」がほぼ同じ割合であった。「10代」も意外に多かった。



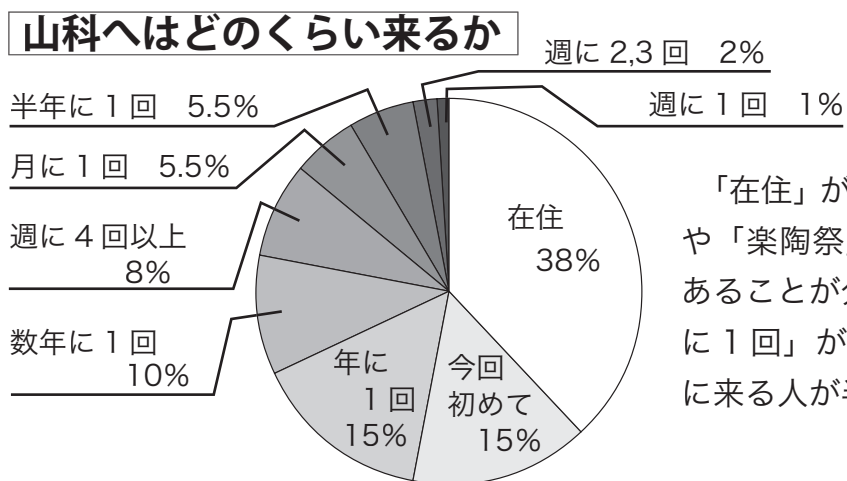
関西圏からの来訪者の割合が多く、「市内」と「関西」を合わせると8割を超えていた。次いで多いのは「中部」からで、その他、全国からの来訪者がみられた。



「バス」利用者と「マイカー」利用者が各々3割程度と多い。「徒歩」「タクシー」「自転車」がその次に続き、「地下鉄」利用者は少数であった。

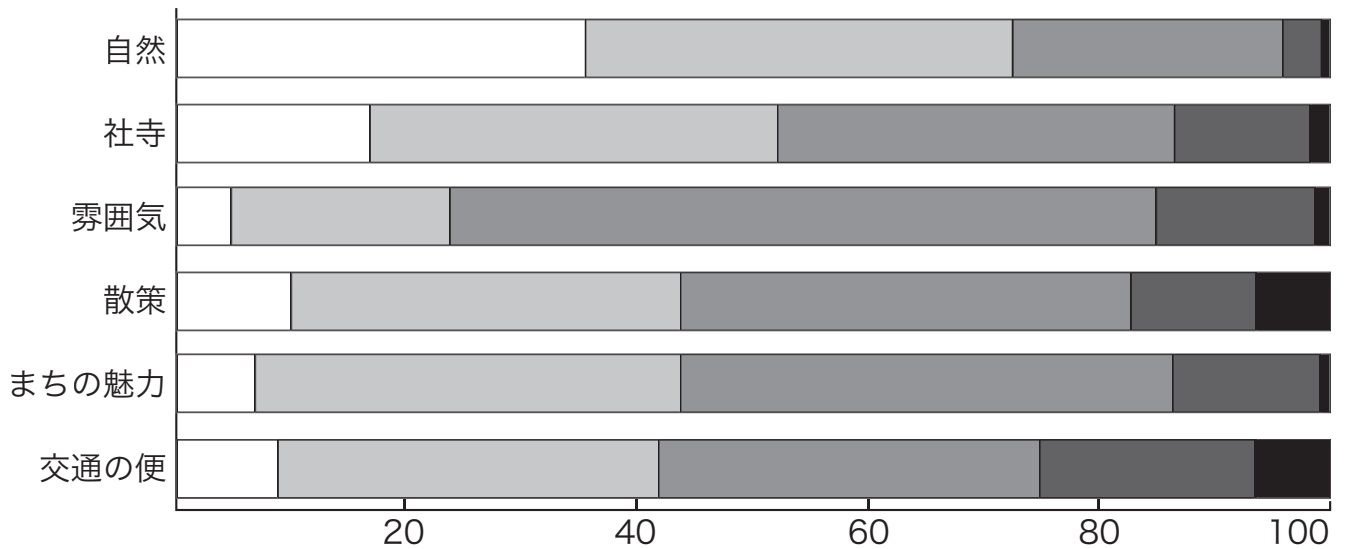


夫婦や親子など「家族で」来場される割合が多かった。次いで「友人と」が続き、「一人で」来られる方は約1割であった。



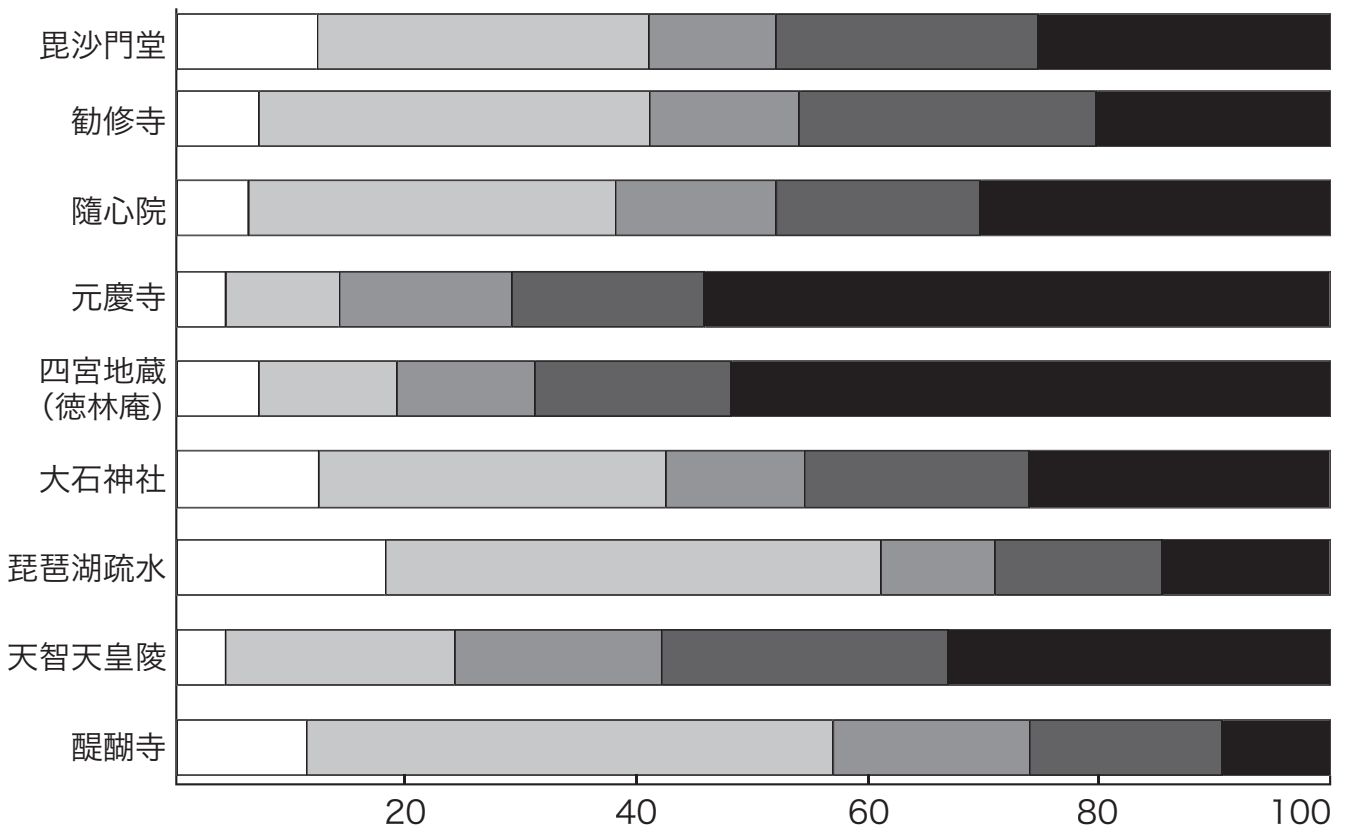
「在住」が4割弱と一番多く、「陶器まつり」や「楽陶祭」が、地元知られたイベントであることが分かる。次いで「今回初めて」「年に1回」が続いており、イベントを機に山科に来る人が半数近くいることが読み取れる。

**山科のイメージ** 大変良い 良い 普通 少し悪い 悪い



「大変良い」、「良い」を合わせたプラスイメージが最も多いのは「自然」であり、「社寺」「散策」「まちの魅力」が続いている。「悪い」「少し悪い」を合わせたマイナスイメージが最も多いのは「交通の便」であるが、その割合は3割弱であった。

**名所,史跡の認知度** よく行く 行ったことがある 行ってみたい 知っている 知らない



「よく行く」「行ったことがある」の合計では「琵琶湖疏水」が最も多く、「醍醐寺」「大石神社」「毘沙門堂」「勧修寺」と続いている。区外の施設であるが、「醍醐寺」については「行ってみたい」「知っている」を合わせた割合が、9割を超えており、最も認知度が高かった。「元慶寺」「四宮地藏 (徳林庵)」は知らないとの答えが半数を占めた。



#### (4) 秋の観光シーズンにおける調査

##### ア 実施概要

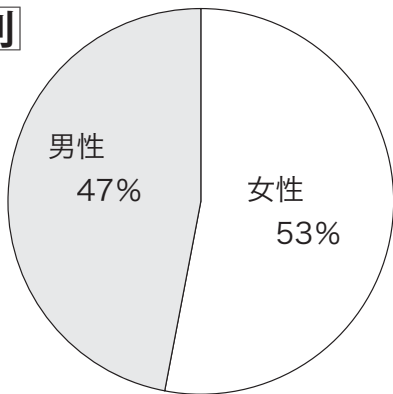
- ① 実施日：平成 19 年 11 月 17 日(土)及び 25 日(日)
- ② 実施場所：毘沙門堂, 山科駅前, 随心院

##### イ 回答数

実施日	11月17日			11月25日		
場所	毘沙門堂	山科駅前	随心院	毘沙門堂	山科駅前	随心院
回答数	100票	52票	50票	99票	86票	71票
	合 計			458票		

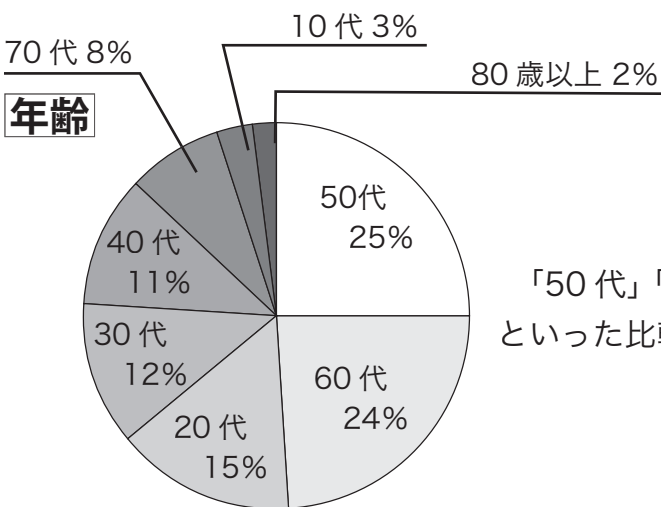
##### ウ 調査結果

###### 性別



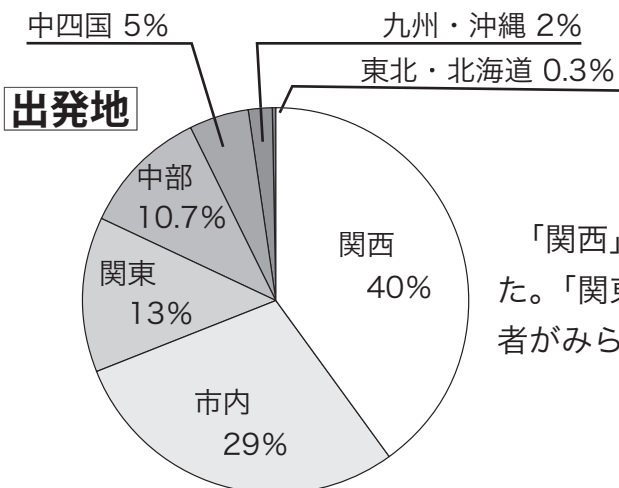
全体では「男性」「女性」は、ほぼ同じ割合であった。

###### 年齢



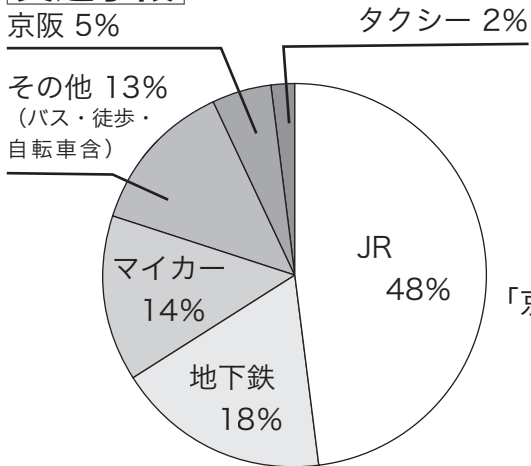
「50代」「60代」が約半数を占めるが、「20代」「30代」といった比較的若い世代も多かった。

###### 出発地



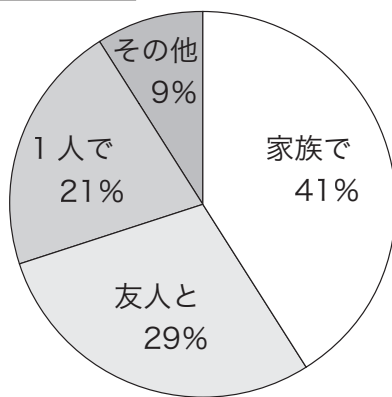
「関西」が最も多く、「市内」と合わせると約7割となった。「関東」「中部」「中四国」など幅広い地域からの来訪者がみられた。

## 交通手段



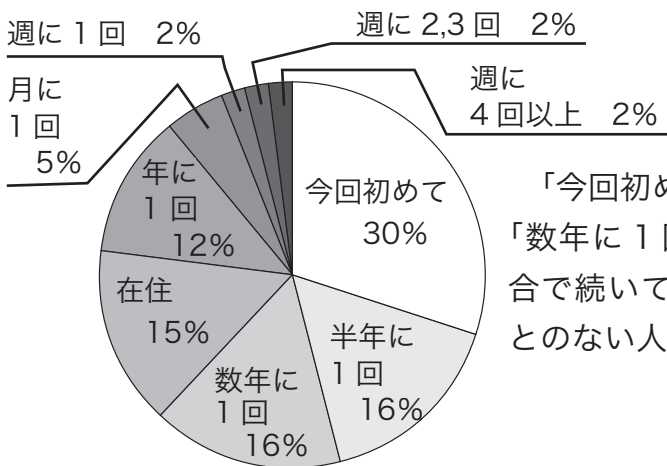
「JR」が最も多く、「地下鉄」「マイカー」と続いている。「京阪」や「タクシー」の利用者はわずかにとどまった。

## 誰と来たか



「家族で」が最も多く、次いで「友人と」が続き、「一人で」来る割合も意外に多かった。

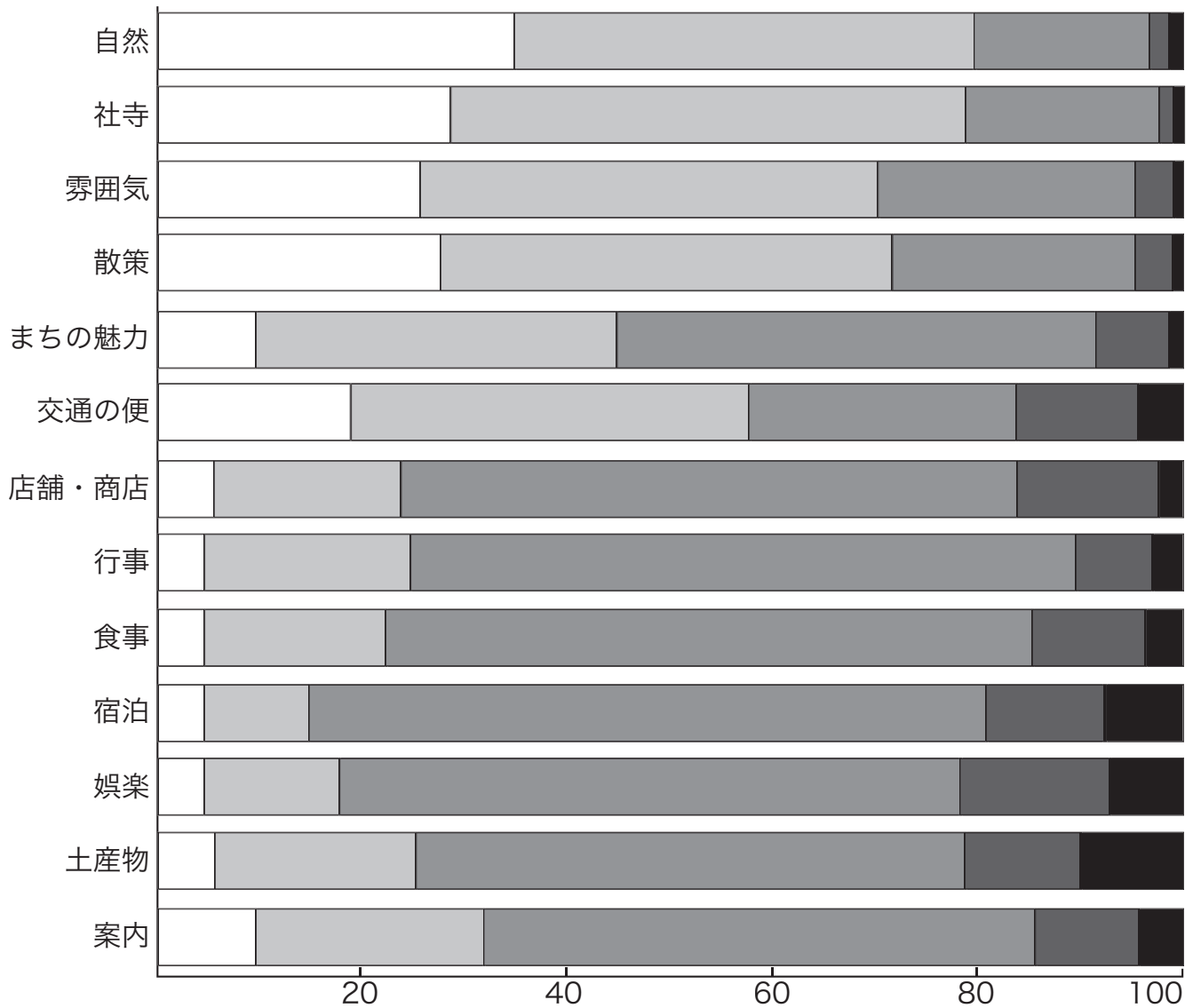
## 山科へはどのくらい来るか



「今回初めて」が3割と一番多く、次いで「半年に1回」「数年に1回」「在住」「年に1回」の回答が同程度の割合が続いている。行楽シーズンは、普段山科を訪れることのない人が7割を超えて訪れていることが分かる。

## 山科のイメージ

大変良い    良い    普通    少し悪い    悪い

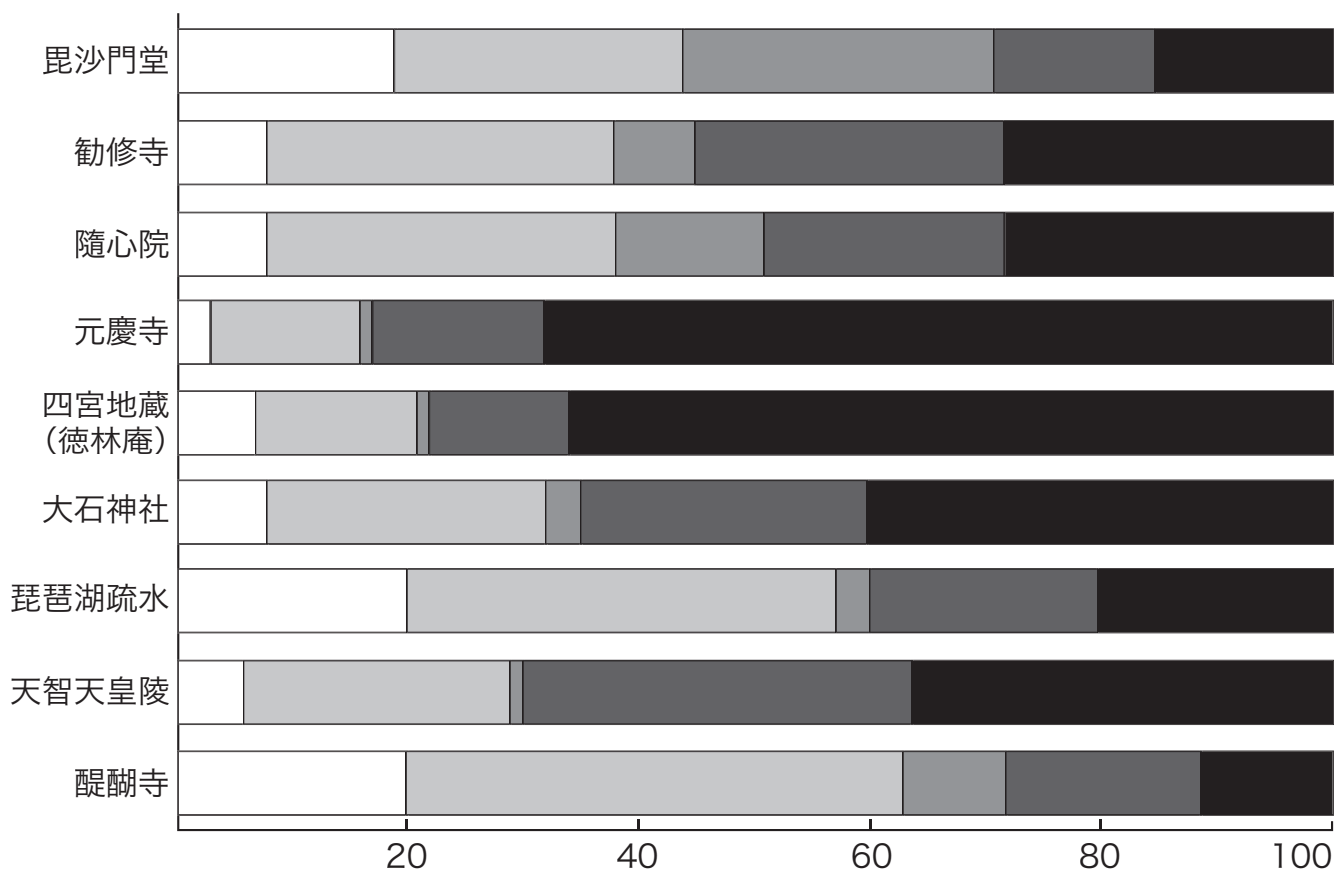


「大変良い」「良い」を合わせたプラスイメージについては「自然」「社寺」「散策」「雰囲気」「交通の便」が多く挙げられ、「少し悪い」「悪い」を合わせたマイナスイメージについては、「娯楽」「土産物」「宿泊」「交通の便」「店舗・商店」が多く挙げられた。都市的な魅力よりも自然環境、史跡を中心とした散策イメージが魅力的に映っていることが読み取れる。

なお、「交通の便」については、プラス、マイナスともに多く挙げられていることが興味深い。



**名所,史跡の認知度** よく行く 行ったことがある 今回行く 知っている 知らない



「よく行く」「行ったことがある」の合計では、区外の寺院であるが「醍醐寺」が最も多く、「琵琶湖疏水」「毘沙門堂」「随心院」「勧修寺」と続いている。「今回行く」「名前は知っている」を合わせた認知度では、清水焼団地の調査同様、「醍醐寺」が9割を超えていた。また、「元慶寺」「四宮地藏（徳林庵）」の認知度は低く、「知らない」の割合が6割以上であった。

### ●良いと感じた点

#### 【自然】

- ・自然が近くにあって良い(女性 40代)
- ・桜,紅葉など自然の美しさがある(女性 60代)
- ・山が美しく残っている点(女性 30代)
- ・京都駅から近いところに自然がある(女性 40代)
- ・ハイキングに良い(男性 40代)

#### 【雰囲気】

- ・静かな雰囲気とお寺が良い(男性 20代)
- ・静かな雰囲気が意外に良かった(女性 40代)
- ・町並みも社寺も素敵です(女性 60代)
- ・閑静な感じがある(男性 50代)
- ・静かで団体客が少ない(女性 50代)

#### 【案内】

- ・山科駅前の案内の方が丁寧に親切に教えてくれた(女性 60代)
- ・京阪バスの案内係の方が親切だった(男性 50代)
- ・山科駅で地図を配ってもらって良かった(女性 30代)

#### 【交通】

- ・インターチェンジから近いのに観光地があるのが良い(女性 30代)
- ・わりと交通の便が良い(男性 50代)

#### 【その他】

- ・町全体で観光を盛り上げているようにみえる(男性 40代)
- ・混雑もたいしたことなく,穴場だと思う(女性 60代)
- ・ホテルが素晴らしく良かった(男性 60代)

### ●不満に感じた点

#### 【食事】

- ・良い飲食店がない(女性 50代)
- ・食事などをできる場所が少ない(男性 50代)
- ・お茶を飲む場所が近くにない(女性 30代)

#### 【買い物】

- ・土産物で欲しい物がなかった(女性 50代)
- ・土産物を作るべき(女性 20代)
- ・ショッピングできる場所が良くない(女性 30代)
- ・駅前で寄ってみようという所がなかった(男性 50代)

#### 【交通】

- ・交通の便が悪い(男性 20代)
- ・毘沙門堂が駅から遠かったのでバスが欲しい(女性 30代)
- ・駐車場が少ない(女性 20代)
- ・車,公共交通機関別にインターネットで情報を発信して欲しい(女性 50代)

#### 【道路】

- ・道路が混雑している(女性 60代)
- ・道路が狭い(女性 60代)

#### 【案内】

- ・案内が少ない(女性 50代)
- ・案内板がもっと欲しい(男性 50代)

#### 【その他】

- ・私の県では山科の観光の紹介がない(男性 60代)
- ・新聞で前もって行事を知らせて欲しい(男性 80歳以上)
- ・イベントが少ない(男性 50代)
- ・目玉の施設がない(女性 20代)

## (5) 総 評

今回の調査結果から、山科区への来訪者は関西地域からの訪問者と京都市民が大部分を占めていることが明らかとなった。また、秋の観光シーズンにおける調査では、初めての来訪者が約3割を占めており、単純に比較はできないが、京都市全体のリピーター率(平成18年調査では初めての来訪者の割合は2.7%)と比べるとリピーターが少ないと言える。

区のイメージは、自然が多いことや静かな雰囲気など、環境面を良いと感じる人が多く、加えて山科駅前での観光案内を好ましいと感じる意見が多数見られた。一方で、飲食店や土産物、案内板など観光に関する基本的な設備に対する不満が明確になった。特に、交通面については山科区までの移動は一定評価されるものの、区内の移動については、不満が多いことが明らかとなった。

また、区内の名所、史跡の認知度にはバラツキがあり、まだまだ知られていない名所、史跡もあることから、効果的なPRの手法などについて検討することが必要不可欠である。

なお、今回の調査については、観光客が多い時期に絞ったうえで調査を行ったため、年間を通しての観光動向の把握はできていない。今後、データ収集の方法、設問の在り方などを検討のうえ、調査を継続的に実施し、調査結果を蓄積していくことが必要である。



## 4 山科区における観光資源

### (1) 調査趣旨

今後、観光振興策を検討していくに当たっては、既に著名な観光資源だけではなく、現在はあまり観光客が訪れることはないものの、観光資源として活用できる可能性のある名所、史跡や観光客を誘致する意思のある名所、史跡を調査し、基礎的なデータを把握したうえで検討を進める必要がある。そのため、観光資源についての基礎的なデータを収集、整理することを目的に調査を行った。

### (2) 調査方法

山科区内にある神社、寺院、旧跡などの観光資源を対象とし、文献調査に加え、神社、寺院については、創建時期・歴史・特徴・伝承及び年間行事などの項目についての調査票を記入いただき、聴き取り調査を行った（調査表は資料編に掲載）。なお、調査結果は、調査趣旨に賛同いただいた神社、寺院を対象に情報を整理している。また主に管理者からの回答を基に取りまとめたため、客観的に立証されていない事実や逸話もあるので、留意することが必要である。

### (3) 山科区観光資源の分類

#### ア 総数

観光資源	神社	寺院	旧跡
件数	24 件	38 件	180 件
観光資源の総数			242 件

(概要は資料編に掲載)

#### 【旧跡 180 件の内訳】

遺跡	24	寺院跡	13	地藏・石仏	23
古墳	13	邸宅跡	3	湧水・井戸	8
墓	13	旧街道	8	自然地形	14
供養塔	3	道標	37	建造物	5
塚	3	石碑	13		

#### イ 地域別の特徴

区内の主な観光資源を地域別に分けると別記の地図（P17）になる。鏡山、花山など、西エリアには須恵器窯跡などの古代遺跡が多く、西野山、小栗栖などの西南エリアには神社が9件と突出して多い。中央部の竹鼻、野村エリアには、山科本願寺の関係の遺跡を中心に、関連した寺や墓が点在している。北エリアは、他地域に比べ自然を多く残す地域だが、寺や旧跡も一定数存在している。東エリアには人康親王関連の旧跡、東南エリアには現存しない廃寺跡や窯跡が見られる。西南及び南エリアには、勧修寺縁起に関わる寺や社、それにまつわる墓、供養塔などが残っている。小山エリアには音羽山に関連する旧跡、自然が見られる。



# 山科の主な観光資源分布図

- 社  
神社
- 院  
寺院
- 跡  
窠跡  
集落跡
- 塔  
墓塔  
供養塔
- 街  
建物  
街道
- 自  
伝承  
自然
- 現  
現代  
施設

## 西エリア (鏡山・花山)

- 社 日向大神宮  
社 六所神社 (北花山)  
社 六所神社 (上花山)  
社 山科豊川稲荷神社
- 跡 朝日稲荷須恵器窠跡  
跡 牛尾須恵器窠跡  
跡 大岩須恵器窠跡  
跡 大峰須恵器窠跡  
跡 北花山遺跡  
跡 北花山竪跡  
跡 坂尻須恵器窠跡  
跡 天智天皇陵付近須恵器窠跡  
跡 後山階遺跡  
跡 日ノ岡壇谷須恵器窠跡  
跡 御陵大岩町遺跡  
跡 六所神社遺跡
- 跡 阿弥陀寺  
跡 阿弥陀寺  
跡 永興寺  
跡 華山寺  
跡 元慶寺  
跡 青蓮院將軍塚 大日堂  
跡 大乗寺  
跡 福應寺  
跡 本因寺  
跡 妙心寺
- 跡 天智天皇山科陵  
跡 大岩古墳  
跡 旭山古墳群  
跡 備正遍昭墓  
跡 吉田初三郎墓
- 跡 同名号碑  
跡 永正寺跡  
跡 元慶寺跡  
跡 花山天文台  
跡 日本最初の鉄筋コンクリート橋  
跡 日向大神宮文化財環境保全地区  
跡 龍の水 (量教水 水喰寺推香庵)  
跡 修路碑  
跡 焼瓦工場跡碑  
跡 五条別れ道標  
跡 厨子奥公食堂  
跡 毘沙門天立像

## 北エリア (安朱)

- 社 十二所神社  
跡 安祥寺  
跡 秀興寺  
跡 瑞光院  
跡 雙林院 (山科聖天)  
跡 當麻寺  
跡 大立寺  
跡 毘沙門堂  
跡 安祥寺川  
跡 琵琶湖疏水
- 跡 安朱遺跡  
跡 安祥寺経塚群  
跡 後山階跡  
跡 輪王寺宮墓  
跡 安祥寺上寺跡  
跡 安祥寺下寺跡  
跡 五条別れ道標  
跡 山階寺跡推定地碑  
跡 阿奴茶屋跡碑  
跡 阿婆の文化資料館

## 東エリア (四宮・音羽)

- 社 四宮大明神  
社 諸羽神社  
社 若宮八幡宮  
跡 光照寺  
跡 十禅寺  
跡 山科地藏 (徳林庵)  
跡 四ノ宮川  
跡 音羽川  
跡 諸羽山
- 跡 熊ヶ谷遺跡  
跡 左義長町遺跡  
跡 芝町遺跡  
跡 人康親王墓  
跡 人康親王供養塔  
跡 御足指水  
跡 音羽水路紀功碑  
跡 小関越道標  
跡 人康親王山荘跡碑  
跡 東海道  
跡 奈良街道  
跡 山科本願寺南殿跡  
跡 蓮如上人お指図の井

## 小山エリア

- 社 白石神社  
跡 安楽寺  
跡 法蔵寺  
跡 明教寺  
跡 大塚遺跡  
跡 圓如 (円如) 上人墓  
跡 蛇ヶ淵  
跡 鏡子の滝  
跡 音羽の滝  
跡 牛尾山  
跡 カルル岩  
跡 大蛇塚  
跡 二の講  
跡 京の田舎 民具資料館

## 中央エリア (竹鼻・野村・柳辻)

- 社 三之宮神社  
社 岩富大明神  
跡 護國寺  
跡 光久寺  
跡 西宗寺  
跡 西念寺  
跡 浄土真宗本願寺派 本願寺山科別院  
跡 稱名寺  
跡 真宗大谷派山科別院長福寺  
跡 山科本願寺土壘跡  
跡 山科本願寺跡  
跡 仏光寺旧跡  
跡 地蔵寺跡  
跡 蓮如上人お指図の井戸  
跡 丹じょうの水  
跡 旧渋谷街道 (苦集滅道)  
跡 表徳碑 (牛馬牧場跡と東野教済)
- 跡 左義長町遺跡  
跡 四手井城跡
- 跡 圓如 (実如) 上人墓  
跡 圓如 (証如) 上人墓  
跡 蓮如上人御前所  
跡 山科川  
跡 ゆうなぎの水  
跡 六兵衛池湧水

## 東南エリア (大宅・大塚)

- 社 岩屋神社  
社 天神社  
跡 軟嘉光寺  
跡 川崎大師京都別院 笠原寺  
跡 妙見寺  
跡 大宅麻寺瓦窠跡  
跡 大宅遺跡  
跡 堂ノ山遺跡  
跡 大宅麻寺境内瓦窠跡  
跡 皇塚  
跡 大宅古墳  
跡 向山古墳  
跡 宮道列子墓  
跡 大宅一里塚  
跡 大宅麻寺  
跡 奈良街道

## 西南エリア (西野山・小栗栖)

- 社 朝日神社  
社 安室神社  
社 大石神社  
社 折上稲荷神社  
社 花山神社  
社 中臣神社  
社 八幡宮 (川田)  
社 山科神社  
社 若宮八幡宮 (瀬石)  
跡 岩屋寺  
跡 清水焼団地
- 跡 中臣遺跡  
跡 稲荷塚古墳  
跡 花山神社古墳  
跡 坂上田村麻呂墓伝承地  
跡 中臣十三塚  
跡 中島屋古墳  
跡 西野山古墓  
跡 宮道列子墓

## 南エリア (勤修・小野)

- 社 八幡宮 (勤修寺)  
社 宮道神社  
跡 勤修寺  
跡 隨心院  
跡 仏光院  
跡 小野種  
跡 宮道古墳  
跡 藤原高藤墓  
跡 勤修寺宮墓  
跡 勤修寺旧境内  
跡 隨心院旧境内  
跡 勤修寺庭園  
跡 旧東海道線山科駅跡碑  
跡 大日寺跡  
跡 山科浄水場



## ウ 時代別の特徴

区内の主な観光資源を設立時期で分類すると別記の資料(P19)になる。

神社については、平安時代に創建されたと伝わっているものが多い。しかしながら社殿などの建築物のほとんどが戦火などで焼失しており、当時の面影を伝える付加価値は見出しにくい。

寺院については、元慶寺、勸修寺、随心院など、現存する著名な寺院は、いずれも山科が首都近郊として重要な位置を占める平安時代に建立されている。毘沙門堂は江戸時代に山科に再興されたものであるが、本圀寺、歓喜光寺などについても、創建は古いものの、近年になってから山科区へ移転してきた寺院である。

旧跡については、窯跡や集落遺跡は縄文時代から古墳時代後期にかけてのものが多数存在しており、そのほか、幅広い年代の旧跡が区内にあることが分かる。

なお、墓、石碑などは、対象となる人物などが属する時代に分類したほか、創建時期が不明なものについては、掲載していない。

### (4) 山科区観光資源の分析

#### ア 神社について

山科区内の神社のうち、有人の神社については、大多数の神社から観光振興について協力的な意見が得られ、詳細な情報を収集することができた。また、無人の神社については、可能な限り、現状で判明している情報をまとめた。神社の縁起や歴史、立地、ご利益、意見などから、今後の観光振興の可能性を分析した。



折上稲荷神社  
織物業界や女性守護の神様

#### 【観光資源として活用されている神社】

大石神社	大石内蔵助に関する宝物を数多く所蔵し、参拝者に公開している。大石桜。
日向大神宮	京の伊勢として名高く、紅葉の名所として知られる。天の岩戸。

#### 【観光資源として活用することが可能である神社(有人)】

岩屋神社	中世にいわれた岩屋三社の東の岩屋神社として奥の院陰陽石の存在。桜の名所。
折上稲荷神社	女性出世, 女性守護のご利益。西陣はじめ織物業界の信仰厚い。稲荷塚の存在。
花山稲荷神社	伏見稲荷のお母さんの神様を祀る奥宮。大石内蔵助ゆかりの石や鳥居。桜の名所。
三之宮神社	安産のご利益。山科郷土との関わり深く後小松天皇ゆかりの「大般若経」がある。
諸羽神社	中世にいわれた岩屋三社の上の岩屋神社(推定)として白岩の存在。琵琶石。
若宮八幡宮	古北陸道に面する天智天皇ゆかりの古社。大津皇子, 粟津皇子の供養塔がある。

観光資源時代	神社	寺院	旧跡
縄文			・北花山遺跡 ・大宅遺跡 ・安朱遺跡 ・柴町遺跡 ・北臣遺跡
埴			・左義長町遺跡
前期	・岩屋神社 (344)		・花山稻荷神社古墳
古墳	・日向大神宮 (485~487)		・大岩古墳 ・天智天皇陵付近須恵器窯跡 ・日ノ岡堤谷須恵器窯跡 ・坂尻須恵器窯跡 ・大峰須恵器窯跡 ・朝日稻荷須恵器窯跡 ・旭山古墳群 ・稻荷塚古墳 ・中鳥居古墳 ・中臣十三塚 ・向山古墳 ・山科窯跡群 ・宮道古墳 ・大宅古墳 ・坂上田村麻呂墓伝承地
後期			
飛鳥	・若宮八幡宮 (音羽, 662~671)	・毘沙門堂 (703)	・山階寺跡 (推定地) ・天智天皇山科陵 (699)
前期			・西野山古墓 ・旧奈良街道 ・銚子の滝 ・音羽の滝 ・後山階陵遺跡 ・御陵大岩町遺跡 ・大宅廃寺瓦窯跡 ・大塚遺跡 ・大宅廃寺
奈良			
後期		・法蔵寺 (778)	・大宅廃寺境内瓦窯跡 ・元屋敷廃寺 ・旧東海道
前期	・諸羽神社 (862) ・山科神社 (897) ・三之宮神社 (901頃) ・花山稻荷神社 (903)	・徳林庵山科地藏 (852) ・元慶寺 (868) ・勤修寺 (900) ・華山寺 (9世紀中頃) ・安祥寺 (9世紀中頃)	・旧渋谷街道 (苦集滅道)・藤原高藤墓 ・皇塚・大日寺跡 ・藤原順子陵 (871頃) ・人康親王山莊跡 ・人康親王墓 (872頃) ・四宮大明神 (四宮社) ・安祥寺下寺跡 ・僧正遍昭墓 (890頃) ・安祥寺上寺跡 ・宮道夫妻墓 (9世紀末) ・六所神社遺跡 ・宮道列子墓 (910頃)
中期	・中臣神社 ・愛宕神社 ・若宮八幡宮 (西野山)	・宮道神社 ・隨心院 (991) ・大乘院 (1018)	
後期			・安祥寺経塚群
鎌倉		・歓喜光寺 ・光照寺 ・當麻寺 (1234) ・本圀寺 (1253)	・地藏寺跡 ・御足摺水 ・人康親王供養塔 ・蛇ヶ淵 ・大蛇塚 ・厨子奥毘沙門天像
室町	・六所神社 (上花山,1543)	・光久寺 ・徳林庵 (1531) ・明教寺 (1496) ・光照寺 (1536)	・四手井城跡 ・山科本願寺土塁跡 (1478) ・蓮如上人お指図の井戸 (1489) ・円如上人墓 (1522頃) ・実如上人墓 (1525) ・蓮如上人墓 (1554頃) ・証如上人墓 (1554頃) ・山科本願寺南殿跡
前期		・護國寺 (1643) ・稱名寺 (1661) ・雙林院 (1665)	・大宅一里塚 (1604) ・だんじょの水 (1690)
江戸	・朝日神社 (1740)	・安楽寺 (1696) ・真宗大谷派山科別院長福寺 (1732) ・浄土真宗本願寺派本願寺山科別院 (1732)	・勤修寺宮墓 (1700頃) ・五条別れ道標 (1707) ・名号碑 (1717)
中期			
後期		・大乘寺 (1800頃)	・輪王寺宮墓 (1788)
明治大正			・奴茶屋 ・琵琶湖疏水 (1890) ・疏水遊歩道 (1890) ・日本最初の鉄筋コンクリート橋 (1903) ・琵琶湖疏水煉瓦工場跡
昭和	・大石神社 (1935)	・仏光院 (1947) ・川崎大師京都別院笠原寺 (1979)	・花山天文台 (1929) ・吉田初三郎墓 (1955) ・山科浄水場 (1970)



## 【観光資源として活用することが可能である神社（無人）】

朝日神社	徳川家光の娘千代姫が所有した土地に、天照大神や倉稻魂命、徳川家康を祀る社。
四宮大明神	琵琶法師の祖と伝わる人康親王、蝉丸など音曲弦楽芸能の神、福祉の神を祀る社。
白石神社	牛尾山登山口にある古代岩坐信仰の名残を残す神社、お尻を上げた狛犬が珍しい。
中臣神社	中臣氏祖神天児屋根命を祀る宮道列子の墓のそばにある小社。山科神社のお旅所。
宮道神社	宮道列子と藤原高藤、藤原定方、藤原胤子など勧修寺縁起に由縁の人々が祀られる。
山科神社	岩屋三社として西巖屋大明神と呼ばれた。三間社流造の本殿は京都市指定文化財。

## イ 寺院について

調査を行う中で、寺院については、観光振興に対する賛否両論が見られた。山科で、現在、観光の対象となる寺院は、ごく限られている。その他の寺院は、古い歴史を持っているながら、それを観光の視点から積極的に活用・周知することが少なく、特に、限られた檀家のみを対象に日常の宗教活動を行っている寺院については、「観光振興」という言葉自体に違和感を抱かれるところもあった。調査中、いくつかの寺院からは、「これを機会に積極的に寺の歴史を広めていきたい」との意見も出されたので、それらを踏まえ、今後の観光振興の可能性を分析した。



元慶寺

西国三十三箇所観音霊場番外札所

## 【観光資源として活用されている寺院】

勧修寺	背後の山々を借景とし、氷室池を中心とした平安時代の面影を残す庭園がある。
元慶寺	西国三十三箇所の番外札所として知られる。僧正遍昭、花山天皇ゆかりの寺。
随心院	小野小町の邸宅跡と伝わる寺院で、はねず踊り、小町祭などが行われる。
毘沙門堂	樹齢 150 余年の枝垂桜や、紅葉の名所として知られる。
本願寺派山科別院	山科本願寺を創建した蓮如上人ゆかりの寺院。通称西御坊。浄土真宗本願寺派。
山科別院長福寺	山科本願寺を創建した蓮如上人ゆかりの寺院。通称東御坊。真宗大谷派。

## 【観光資源として活用することが可能である寺院】

岩屋寺	大石閑居跡といわれ、大石良雄が住んだ家の材料で作ったとされる茶室がある。
華山寺	コンクリート廃材でこしらえたお地蔵さんが寺の周囲に多数配置されている。
歓喜光寺	一遍上人絵伝の編者創建。本堂は桃山時代に豊臣秀頼母が建立（京都府指定文化財）。
西宗寺	山科本願寺の土地を寄進した海老名五郎左衛門が開山した寺院。蓮如放鴛の像。
大乘寺	早秋、住職夫妻手植えの酔芙蓉で境内が満開に。大仏師長岡和慶作の酔芙蓉観音。
徳林庵	京都六地藏めぐりの一つ、小野篁作伝の地藏を安置。東海道の守護仏。
法巖寺	坂上田村麻呂が延鎮と出会った清水寺の発祥伝説の地。真言天台修験道の修行場。
本圀寺	足利尊氏、加藤清正が帰依した寺院で、黄金色の鐘は豊臣家ゆかりの品。日蓮宗。
仏光院	両腕を失っても口で絵を描き続けた尼僧、大石順教尼創設の福祉施設を寺とした。
山科聖天	毘沙門堂の奥、紅葉の穴場、「通称寺の会」として観光振興に取組中。
笠原寺	神奈川県にある川崎大師平間寺の山科別院。尼僧修行体験ができる寺院。

## ウ 旧跡について

旧跡については、通称、所在地、種別について重点的に調査したが、形態が多様であるため、それぞれの歴史的背景、設置の経緯などの詳細な調査については、十分に成し得ていない。現在の得ている情報から今後の観光振興の可能性を分析した。



山階寺跡碑  
三条通五条別交差点北東角

### 【観光資源として活用することが可能である旧跡】

遺跡群	花山、日ノ岡エリアに多い須恵器窯跡や集落跡、たたら製鉄などの遺跡群。
街道	奈良街道、竹鼻街道、東海道、渋谷街道など旧街道沿いに点在する街道遺跡。
山科本願寺遺跡	南殿跡や中央公園土塁ほか現存する土塁跡、蓮如御廟、銅像跡など。
偉人墓供養塔	勧修寺周辺の藤原家・宮道家の墓や、蓮如上人や僧正遍昭、坂上田村麻呂など。
各種和歌歌碑	区内には歌人ゆかりの地も多く、元慶寺、大乘寺、岩屋寺などに見られる。
湧き水	亀の水やだんじょ水、ゆうなぎの水など、区内各地に様々な湧き水が存在する。

## エ 歴史的逸話、伝説などについて

今回の調査を通じて寄せられた各神社の縁起、各寺院の伝承や、文献調査を通じて明らかになった逸話などを整理し、今後、観光振興において活用できるのではないかとと思われる事例や着眼点を分析した。



二の講  
山の神様を祀る小山の伝統行事

### 【観光資源として活用することが可能である逸話・伝説】

岩坐文化	山科には盆地を取り囲むようにして、岩や巨石を起源とする神社が周囲の山々に点在する。中世にいわれた岩屋三社（東の岩屋神社、西の山科神社、北の諸羽神社（推定））をはじめ、天の岩戸がある北西の日向大神宮、小山の鎮守である北東の白石神社と、これらを上空から見るときれいにUの字を描いている。
山階寺	山科区は、中臣遺跡のほか、中臣（藤原）鎌足の邸宅である「山階陶原家」を起源とする山階寺があった地である。推定地の近くには、天智天皇（中大兄皇子）の御陵もある。
大蛇伝説	山科盆地の鬼門（北東）に位置する牛尾山には、清水寺と起源を同じくする古刹法蔵寺があり、現在も修験道の修行場となっている。その山道には「経岩」や「銚子の滝」など、神秘的な言い伝えを残す場所が点在し、そのふもとの集落、小山に伝わるのが「大蛇伝説」である。古くから里の祭事として毎年二月九日に山の神（大蛇）を鎮める「二の講」という行事が行われてきた。小山にはその蛇を退治したという、弓矢の名手「内海浪介景忠」の子孫や、その伝説を伝える巻物が現存している。また、牛尾山は清流沿いに紅葉や桜なども楽しめるハイキングコースとしてもよく知られている。

<p>平安時代の たまのこし</p>	<p>勧修寺はもともと宮道という宇治郡司の家で、藤原高藤という貴族が鷹狩りに山科を訪れた際の逸話が『今昔物語』に残る。鷹狩りで雷雨に遭った高藤は宮道家に宿を求めた。その家の娘列子(たまこ)を見初め将来を誓い合ったが、無常にも6年の歳月が過ぎ、高藤が再び訪ねた頃には胤子という子供がいた。喜んだ高藤はこの母娘を都へ呼び列子を妻に迎えた。娘である胤子は、後の宇多天皇と結婚して醍醐天皇を生んだという。列子と高藤夫婦の出会いは、希少な純愛物語として、身分の違いを超えた平安時代の「たまのこし」伝説と伝わる。醍醐天皇が母の死後、菩提を弔うために実家である宮道家を寺としたのが勧修寺の縁起である。また、高藤は藤原冬嗣の孫であり、紫式部の先祖にも当たる。</p>
<p>東海道</p>	<p>六地藏めぐりの一つである四宮地藏を有するなど、旧東海道を歩く人々は今も多い。また、あまり知られていないが、日ノ岡以西の旧街道は、木食養阿上人ゆかりの梅香庵や大乘寺、車石記念碑などの多くの史跡が存在する。</p>
<p>地藏信仰</p>	<p>山科には京都のまちなかと同じく、至るところに、お地藏さんが祀られている。四ノ宮にある徳林庵山科地藏は、平安時代の七道の辻の一つ、また江戸時代の六地藏めぐりの一つとして、古くから信仰を集め、山科は名実ともに地藏信仰の町として由緒ある地域である。その場所に長年奉られてきたことの尊さを見直す機会として、それぞれの地域のお地藏さんに愛称を付けるなどのプロジェクトを展開し、「お地藏さんのまち」を着地型観光として展開していくこともできる。</p>
<p>琵琶法師</p>	<p>小野篁作伝の地藏が安置される四宮地藏堂周辺は、盲目になり山科に隠棲した人康(さねやす)親王ゆかりの地である。親王は琵琶の名手で同境遇の僧に琵琶を教え、江戸時代には琵琶法師たちに神と崇められたと伝わっている。全国を渡り歩いた琵琶法師によって、境界の守り神である道祖神が広まったとする説もある。四宮地藏の作者として伝わる小野篁が謎めいた人物であることや、百人一首の歌人、蝉丸や小野小町が晩年住んだとされる逢坂の関とも地続きの場所で、四ノ宮周辺にはミステリアスな雰囲気漂う。</p>



**宮道列子の墓**  
藤原高藤の妻、宮道列子の墓



**亀の水**  
木食養阿上人が開いた  
旧東海道の水飲み場



**四宮大明神**  
琵琶琴元祖の人康親王御霊社。



## 5 山科区における観光の特性

これまでの山科区における観光の現状，観光客の意識，観光資源の調査を基に，山科区における観光の特性を，強みと弱みの両面から整理する。

### (1) 強み

#### ア 立地のよさ

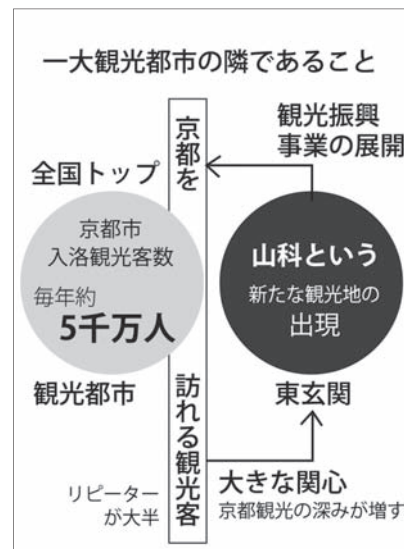
京都市の市内中心部から，公共交通機関を利用すれば短時間で移動可能な場所にあり，その観光客を対象に観光振興事業を展開することにより，他地域の市町村が取り組むよりも効果的に観光客の増加が期待できる。また，都に通じる街道が通っていたという地の利を活かせば，都の東玄関として近隣の津市や宇治市と連携した取組も展開することができる。

#### イ 豊富な自然

山科は京都盆地と同様に三方を緑に囲まれた盆地であり，平野部を北部から南部にかけて散策に適した川が流れており，市街地のすぐ側に豊かな自然が存在している。明治時代に整備された疏水は，美しい桜並木が整備されており，区民によって植えられた菜の花とのコントラストは何物にも代えがたい魅力がある。

#### ウ 意外性のある魅力

山科は，観光都市京都の一部であるが，平安京造営以前からの歴史を有する地域として，市内中心部にも負けない多種多様な観光資源を有する。これらは，京都市内の著名な施設を何度も訪れたことのある観光客にとって，京都の新たな一面としての魅力を発揮する。また，現状では，山科を訪れる観光客は多くないため，これらの観光資源は，混雑を避けた観光客には，穴場的な魅力を有する。



琵琶湖疏水  
桜並木と地元の方々による菜の花



天智天皇山階陵  
琵琶湖疏水の左岸にある広大な陵



## (2) 弱み

### ア 情報発信力の不足

観光振興について各団体の個別の活動はあるものの、戦略的に観光振興を行うための組織や体制は整備されていない。そのため、幅広い観光資源の素晴らしさについて、情報発信が有効に行われておらず、京都市全体の中で、山科の観光資源は埋もれてしまっている。また、その魅力は区民にも十分周知されていない。

### イ 観光産業の不足

観光客が気軽に出入りできる飲食店は多いとは言えず、観光客を対象に事業を展開している店舗も少数である。また、山科の土産物として確立した位置付けにある物品もなく、個々の店舗で和菓子や洋菓子、飴などを製造しているのみで、加えて駅前や名所、史跡周辺に土産物店はほとんどない。

### ウ 観光基盤の不足

JR線、京阪電車、京都市営地下鉄や高速道路のインターチェンジを有し、区外から山科区を訪れるための交通網は整備されている。その一方で区内を移動するための公共交通機関は地下鉄と京阪バスのみであり、駅から目的とする名所、史跡までの移動が困難となっている。また、昔からの街道をはじめ狭小な道が多いほか、歩行者のための歩道の整備も十分ではなく、大型観光バスや自家用車向けの駐車場も十分に整備されていない。加えて、観光客を迎える玄関とも言える山科駅前において観光案内所はなく、各駅から名所、史跡までの案内板も十分とは言えない。

## 6 課題解決に向けた取組

山科区の現状を踏まえて明らかになった課題について、解決に向けて必要な取組を整理する。これらの課題は一朝一夕に解決できるものではなく、また行政機関のみが解決し得るものでもない。山科区の観光振興に向けて、行政機関や大学、事業者、各団体、区民が協力しながら、一步一步、改善を進めていく必要がある。

### (1) 情報発信力の強化

#### ア 「おこしやす“やましな”協議会」の機能強化

観光振興組織としての「おこしやす“やましな”協議会」の体制を強化するとともに、より一層の区民参加を図り、活動の担い手の充実を図っていく。また、区内の各団体、区民が実施している観光振興事業について、その総括と支援を担う組織としての位置付けを確立し、観光振興事業を企画・立案する際に的確なアドバイスやヒントを提示できる相談窓口を設けていく。

#### イ ホームページの充実

今後、インターネットで観光情報を入手する観光客はますます増えることが予想される。「おこしやす“やましな”協議会」が設けているホームページについては、山科区の観光情報を詳細に分かりやすく紹介するページになるよう、各団体、区民の協力を求め、区内の観光情報のより一層の集約を図るとともに、季節や話題に応じた観光情報の発信を目指していく。

#### ウ 各種印刷物の制作・配布

区内の魅力をまとめたガイドブックやマップ、山科に伝わる昔話や民話をまとめた印刷物、絵本などの作成を行う。作成した冊子は「おこしやす“やましな”号」を活用するなど、積極的に観光客や区民に配布していく。

#### エ 山科区観光資源情報の積極的活用

今回の調査で収集した観光資源に関する情報については、今後も継続的に情報を収集するとともに、定期的に情報内容の確認を行うことが必要不可欠である。また、観光振興に取り組む団体や区民が使いやすい仕組みや情報提供の方法などを検討し、積極的な活用を図っていく。

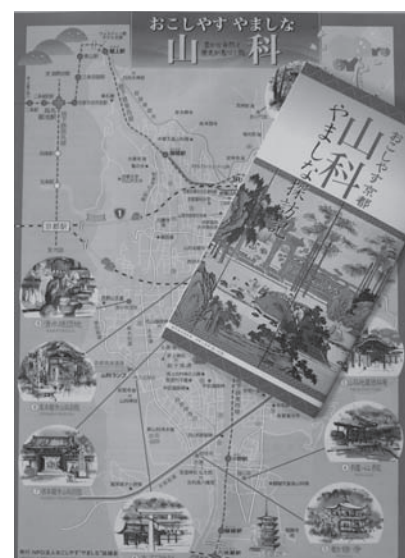


#### 設立総会

平成18年9月27日に開催されたおこしやす“やましな”協議会設立総会



#### おこしやす“やましな”協議会 ホームページ



#### マップや観光ガイドパンフ類 山科の名所紹介

## オ デジタルアーカイブ事業の実施

観光資源情報の整理と併せ、伝統行事や美しい自然、残したい風景の撮影や区民の所蔵する過去の映像の収集などを検討し、山科の魅力を視覚的に訴えけるとともに、後世に伝えられる仕組みの構築を検討していく。

## カ 広報活動の実施

京都市内滞在中の観光客を対象に、ターミナル駅やホテルにおいて、印刷物の配布、キャンペーン活動などを実施する。また、首都圏における京都情報の総合拠点である「京都館」の積極的活用や鉄道会社、旅行会社と連携した広報活動などを行い、修学旅行生をはじめ全国からの集客を図っていく。

## キ 近隣自治体との連携

山科区の観光資源の積極的活用を図るため、地理的、歴史的に繋がりのある大津市や宇治市などとの連携を検討し、効果的な情報発信と観光客の誘致を図っていく。



採燈大護摩供勤修  
十禅寺（11月3日）



おこしやす"やま"山科  
おこしやす"やま"山科協議会の  
宣伝カーは貸し出しも可能



国道1号沿いの関蟬丸神社  
四宮に伝わる人康親王との関わり

## (2) 観光産業の強化

### ア 新「山科ブランド」の創造

各団体や商工会議所などと連携し、伝統工芸、伝統産業、農業など、山科に現存する産業の価値を再評価するとともに、異業種が融合した商品開発を積極的に試みる機会の企画・立案を積極的に支援していく。

### イ 「やま"山科"土産」認定制度の実施

山科の地域特性を反映した商品や新たな山科名物に対し、「やま"山科"土産」として認定する制度を創設する。また、認定された商品などの情報については、集約のうえ、印刷物、ホームページなどで積極的に情報を発信し、観光客にアピールしていく。



やま"山科"土産ブランド「en」  
平成20年3月7日の展示会



はねずいろいろ  
随心院ではねず踊りの日（3月最終日曜日）に販売される、竹筒を使った黒蜜入り水菓子



### ウ 「観光アイデア賞」の制定

事業者や区民から観光につながるアイデアを募集する賞を創設し、区内の観光振興活動の裾野を広げていく。また、有効な観光振興事業や取組については、経済的な特典をもたらす仕組みについても検討していく。

### エ 「商店街観光プロジェクト」の推進

商店街の観光振興拠点としての可能性を検討し、商店街で既に実施されている様々な集客イベント（三条街道わくわくフェスティバル、蓮如さんへの道DE歩行者天国、ぐるっとふれ愛まちフェスタなど）と連携し、観光客の誘致を図っていく。

### オ 「一店舗一事業」の推進

区内の事業所や商店を対象に、可能な範囲での観光客を対象とした新商品の開発や新事業の展開を呼び掛け、長期的な視野で土産物店や飲食店の充実をはじめとした、観光基盤の強化を図っていく。



びっくり箱ツアー

京都山科観光プロジェクト実行委員会実施、山科産業観光ツアー



ぐるっとふれ愛まちフェスタ  
竹鼻街道を行進



琵琶上用

京都山科観光プロジェクト実行委員会実施「玉手箱ツアー」で企画した四宮伝説にちなんだ和菓子

## (3) 観光基盤の強化

### ア モデルコースの設定と共通拝観券の企画

区内の移動手段や名所、史跡の認知度の差を解消するため、①歩いて楽しめる観光コースの設定、②観光における自転車の積極的活用、③タクシーを使ったモデル観光コースの設定、④交通機関と連携した共通拝観券の検討などを行っていく。

### イ 観光交通網の整理

駅を起点とし、名所、史跡へのバス路線や本数などの情報や徒歩で移動する場合の情報（所要時間、休憩地点、飲食店、危険箇所など）を整理する。また、現存する駐車場の情報についても可能な限り集約を図り、印刷物やホームページによる情報発信を図っていく。



ホップ・ステップ・マップ

山科区役所と京都橘大学、区民が協働で作成したまち歩きマップ



山科駅周辺商店街マップ

京都橘大学が作成した駐車場情報付観光マップ



## ウ 山科駅前での案内事業の充実

鉄道事業者の協力を得て、山科区老人クラブ連合会が実施している案内事業と連携し、山科駅前における観光客への観光案内、区内の魅力を紹介した印刷物の配布、イベントの告知などを積極的に行っていく。



春と秋の観光道案内  
山科区老人クラブ連合会

## エ ガイドサービスの充実

区民を対象として、各種の講座などを通じた山科の歴史や文化に対する学習を進めるとともに、ボランティアガイドの組織化と育成を図り、観光シーズンを中心に観光客に対する案内事業を実施していく。



玉手箱ツアー  
やましな歴史ウォーキングツアーとして「やましなを語りつぐ会」が案内

## オ 観光地としての都市景観の整備

現存している旧街道を「区の古道」として周知することを目的に、イベントの実施を検討するとともに舗装の色の変更などについて関係機関に要望していく。また、豊かな自然や史跡周辺の景観については、その価値を区民と共有し、保存を呼び掛けていく。



旧東海道と三条通の辻  
昔の面影は減少の一途

## カ 観光案内板の整備

駅から観光対象施設や施設間の移動順路沿いに、分かりやすい案内板の設置を検討していく。案内板については、順路の説明だけでなく、山科区の文化や歴史についても紹介できる内容を目指していく。また、後世に伝えたい建造物などについては、観光客や区民がその存在に気付くことができるための案内板や記念碑を設置していく。



随心院案内板  
おこしやす"やましな"協議会により、平成20年3月に設置された案内板

## おわりに

今回の調査により、山科区には、観光資源として有効に活用することが可能である神社や寺院、魅力的な歴史や豊富な自然があり、これらの地域特性を活かした観光振興事業を展開することにより、観光客の誘致に大きな可能性を秘めた地域であることが明らかになった。今後、この調査結果を基におこしやす“やましな”協議会が中心となり、行政機関、大学、各団体、区民の連携・協力の下、観光客誘致に向けた取組を戦略的、積極的に進めていくことが必要である。

また、観光客の誘致も大切なことではあるが、より重要なことは、区民や山科に通勤・通学で集う人々が、これまで知らなかった山科の歴史や隠れた魅力を知ることにより、まちへの愛着を深め、そのことが地域の発展や魅力的なまちづくりにつながっていくことではないだろうか。

今回の調査結果を各団体・区民が観光振興に取り組む際に積極的に御活用いただくことにより、山科のまちづくりの一助となれば幸いである。



諸羽山中腹より南を臨む  
朝もや煙る山科盆地



# 資 料 編



# 第33回 陶器まつり アンケート

京都橘大学  
文化政策学部 織田研究室

本日は会場にお越しいただき、誠にありがとうございます。京都橘大学文化政策学部が取り組んでおります研究活動の参考とさせていただきます。下記アンケートにお答えください。期間中、毎日先着100名様に、山科小山の鮎匠さわはら「地釜炊き鮎」をプレゼントしております。ご協力の程、よろしくお願い致します。

性別 A. 男性 B. 女性 在住 A. 市内( 区) B. 市外( 都・道・府・県 市・町・村)  
年齢 A. 10才未満 B. 10代 C. 20代 D. 30代 E. 40代 F. 50代 G. 60代 H. 70代 I. 80歳以上

Q1. 本日はどなたと来られましたか？

A. お一人で B. ご家族と C. ご友人と D. その他 ( )

Q2. 交通手段を教えてください。

A. JR山科駅から京阪路線バス B. 地下鉄山科駅から京阪路線バス C. 京阪山科駅から京阪路線バス  
D. 区内から京阪路線バス E. 京阪臨時バス (どちらから？→京都駅・烏丸五条・五条京阪・五条坂・四条河原町)  
F. 地下鉄柳辻駅から徒歩 G. 徒歩 H. タクシー I. マイカー J. バイク K. 自転車  
L. その他 ( )

Q3. 何回目のご来場ですか？

A. 初めて B. 2~5回目 C. 6~10回目 D. 11~20回目 E. 21回目以上

Q4. 来られた理由をお聞かせください。

A. 陶器を買うため B. 観光のついでに C. 近所なので D. その他 ( )

Q5. 今回、陶器まつりをお知りになったきっかけは？

A. 知っていた B. 新聞 C. ラジオ D. テレビ E. ポスター F. 知人 G. その他 ( )

Q6. 清水焼団地のイメージについて、お答えください。

A. 雰囲気	活気がある	にぎわっている	普通	少しさみしい	さびれている
B. 散策	歩きやすい	まあ歩きやすい	普通	少し歩みにくい	歩みにくい
C. 人の対応	とてもよい	まあよい	普通	あまりよくない	よくない
D. 交通の便	来やすい	まあ来やすい	普通	少し来にくい	来にくい
E. 情緒	多いにある	まあある	普通	あまりない	全然ない
F. 伝統	多いにある	まあある	普通	あまりない	全然ない

Q7. どのような種類の陶器が欲しいですか？ (3つ選んでください)

A. 茶碗 B. 湯のみ C. 小鉢 D. 大鉢 E. 丼鉢 F. 角皿 G. 長皿 H. 大皿 I. 小皿  
J. 花瓶 K. 花器 L. 水盤 M. 一輪差 N. 急須 O. 湯のみ茶碗5客 P. 抹茶茶碗  
Q. 抹茶道具 R. 煎茶茶碗 H. 煎茶道具 I. 傘立て J. 置物 K. その他 ( )

Q8. 清水焼団地にあればよいと思う施設は？ (3つ選んでください)

A. 作陶見学施設 B. 作陶体験施設 C. 歴史展示・資料館 D. 観光案内所 E. 一般みやげ店  
F. レストラン・食堂 G. カフェ・パー H. コンビニエンスストア I. ホテル旅館 J. その他 ( )

Q9. 散策マップを作るとすれば、ぜひ入れたい項目は？ (3つ選んでください)

A. 作陶見学施設 B. 作陶体験施設 C. 清水焼販売店 D. 観光パンフ設置箇所 E. 一般みやげ店  
F. レストラン・食堂 G. トイレ H. バス停 I. おすすめ散策コース J. その他 ( )



Q10. 山科へはどのくらい来られますか？

- A. 在住 B. 今回初めて C. 数年に1回 D. 年1回 E. 半年1回 F. 月1回 G. 週1回 H. 週2~3日 I. 週4日以上

Q11. 山科へ来られる主な目的は何ですか？（複数回答可）。

- A. 通勤・通学 B. ビジネス・商談 C. 趣味・習い事 D. 知人・親戚宅 E. 散策・観光 F. その他（ ）

Q12. 京都と山科の関係について、近いと思われるものをお選びください。

- A. 京都の一部 B. 京都の東玄関 C. 京都の奥座敷 D. 京都とは別 E. その他（ ）

Q14. 京都や山科の歴史で一番興味のある時代はいつですか？

- A. 飛鳥・奈良 B. 平安・南北朝 C. 鎌倉 D. 室町 E. 戦国 F. 江戸 G. 明治 H. 大正 I. 昭和

Q15. 山科に人が住み始め、集落として栄えたのはいつ頃からだと思いますか？

- A. 縄文時代 B. 弥生時代 C. 飛鳥時代 D. 奈良時代 E. 平安時代 F. 鎌倉時代 G. 室町時代以降

Q16. 山科の伝統産業と聞いて思いつくものは？（複数回答可）

- A. 清水焼 B. 仏壇・仏具 C. 金箔・銅箔 D. 竹製品 E. 桐製品 F. その他（ ）

Q17. 山科のまちのイメージについてお答えください。

A. 社 寺	多いにある	まあある	普通	あまりない	全然ない
B. 自 然	多いにある	まあある	普通	あまりない	全然ない
C. 雰 囲 気	活気がある	にぎわっている	普通	少しさみしい	さびれている
D. 散 策	歩きやすい	まあ歩きやすい	普通	少し歩きにくい	歩きにくい
E. 交通の便	とても便利	まあ便利	普通	少し不便	不便
F. まちの魅力	とてもある	まあある	普通	あまりない	全然ない

Q18. 下記の名所をご存知ですか？ A~Fそれぞれについて○印でお答えください。

	よく行く	行ったことがある	行ってみたい	名前は知っている	知らない
A. 毘沙門堂					
B. 勧修寺					
C. 随心院					
D. 元慶寺					
E. 四宮地藏(徳林庵)					
F. 大石神社					
G. 琵琶湖疏水					
H. 天智天皇陵					
I. 醍醐寺					

Q19. 山科が観光振興に取り組み、街の魅力をPRしていくことをどう思いますか？

多いに賛成	まあ賛成	普通	興味なし	反対	（ご意見）
-------	------	----	------	----	-------

Q20. 観光振興の取り組みに対し、なんらかの形で参加していきたいと思われませんか？

参加したい	機会があれば	イベントなら行く	興味なし	（ご意見）
-------	--------	----------	------	-------

↓山科や清水焼団地について感じていることやご意見があれば自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました

# 第8回 楽陶祭 アンケート

清水焼団地協同組合楽陶祭実行委員会  
京都橘大学文化政策学部 織田研究室

本日は会場にお越しいただき、誠にありがとうございます。  
今後のご参考とさせていただきますたく下記アンケートにお答えください。

性別 A. 男性 B. 女性

在住 A. 山科区内 B. 市内( )区 C. 市外( )都・道・府・県 ( )市・町・村

年齢 A. 10才未満 B. 10代 C. 20代 D. 30代 E. 40代 F. 50代 G. 60代 H. 70代 I. 80歳以上

Q1. 本日はどなたと来られましたか？

A. お一人で B. ご家族と C. ご友人と D. その他( )

Q2. 交通手段を教えてください。

A. JR山科駅から京阪路線バス B. 地下鉄山科駅から京阪路線バス C. 京阪山科駅から京阪路線バス  
D. 区内から京阪路線バス E. 地下鉄柳辻駅から徒歩 F. 徒歩 G. タクシー H. マイカー I. バイク  
J. 自転車 K. その他( )

Q3. 「楽陶祭」には何回目のご来場ですか？

A. 初めて B. 2回目 C. 3～5回目 D. 6回目以上

Q4. 来られた理由をお聞かせください。

A. 陶器を買うため B. 観光のついでに C. 近所なので D. イベントを見に来た D. その他( )

Q5. 今回「楽陶祭」をお知りになったきっかけは？

A. 知っていた B. 新聞 C. ラジオ D. テレビ E. チラシ F. 知人 G. その他( )

Q6. このイベントについてお聞かせください。

A. 印象は？ 1. とてもよかった 2. まあまあよかった 3. あまりよくない 4. よくない  
よかった点( ) よくなかった点( )

B. また来たいと思いますか？ 1. 思う 2. 思わない

C. 印象に残ったプログラムは？(複数回答可)

1. 嶋原太夫道中 2. BATH-HOLIC 3. やきものの里音楽祭( ) 4. クラフト市 5. 陶灯路  
6. 店舗での陶器販売 7. 楽焼コーナー 8. だるま広場 9. ろくろ体験 10. 大道芸 11. 飲食コーナー  
12. クイズラリー 13. 料理教室 14. 橘ショップ 15. 清水焼試作品展示 16. 橘ギャラリー 17. 遊びコーナー  
18. 伝統産業実演・体験・販売 20. その他( )

Q7. 清水焼団地のイメージについて、お答えください。

A. 雰囲気 1. 活気がある 2. にぎわっている 3. 普通 4. 少しさみしい 5. 活気がない  
B. 散策 1. 歩きやすい 2. まあ歩きやすい 3. 普通 4. 少し歩きにくい 5. 歩きにくい  
C. 人の応対 1. とてもよい 2. まあよい 3. 普通 4. あまりよくない 5. よくない  
D. 交通の便 1. 来やすい 2. まあ来やすい 3. 普通 4. 少し来にくい 5. 来にくい  
E. 情緒 1. 多いにある 2. まあある 3. 普通 4. あまりない 5. 全然ない  
F. 伝統 1. 多いにある 2. まあある 3. 普通 4. あまりない 5. 全然ない

Q8. どのような種類の陶器が欲しいですか？(3つ選んでください)

A. 茶碗 B. 湯のみ C. 小鉢 D. 大鉢 E. 丼鉢 F. 角皿 G. 長皿 H. 大皿 I. 小皿  
J. 花瓶 K. 花器 L. 水盤 M. 一輪差 N. 急須 O. 湯のみ茶碗5客 P. 抹茶茶碗  
Q. 抹茶道具 R. 煎茶茶碗 H. 煎茶道具 I. 傘立て J. 置物 K. その他( )

Q9. 清水焼団地にあればよいと思う施設は？(3つ選んでください)

A. 作陶見学施設 B. 作陶体験施設 C. 歴史展示・資料館 D. 観光案内所 E. 一般みやげ店  
F. レストラン・食堂 G. カフェ・パー H. コンビニエンスストア I. ホテル旅館 J. その他( )

Q10. 山科へはどのくらい来られますか？

- A. 在住 B. 今回初めて C. 数年に1回 D. 年1回 E. 半年1回 F. 月1回 G. 週1回 H. 週2~3日 I. 週4日以上
- J. その他 ( )

Q11. 山科へ来られる主な目的は何ですか？（複数回答可）。

- A. 通勤・通学 B. ビジネス・商談 C. 趣味・習い事 D. 知人・親戚宅 E. 散策・観光 F. その他 ( )

Q12. 京都と山科の関係について、近いと思われるものをお選びください。

- A. 京都の一部 B. 京都の東玄関 C. 京都の奥座敷 D. 京都とは別 E. その他 ( )

Q13. 京都や山科の歴史で一番興味のある時代はいつですか？

- A. 飛鳥・奈良 B. 平安・南北朝 C. 鎌倉 D. 室町 E. 戦国 F. 江戸 G. 明治 H. 大正 I. 昭和

Q14. 山科に人が住み始め、集落として栄えたのはいつ頃からだと思いますか？

- A. 縄文時代 B. 弥生時代 C. 飛鳥時代 D. 奈良時代 E. 平安時代 F. 鎌倉時代 G. 室町時代以降

Q15. 山科の伝統産業と聞いて思いつくものは？（複数回答可）

- A. 清水焼 B. 仏壇・仏具 C. 金箔・銅箔 D. 竹製品 E. 桐製品 F. その他 ( )

Q16. 山科のまちのイメージについてお答えください。

- |          |          |            |       |            |           |
|----------|----------|------------|-------|------------|-----------|
| A. 社 寺   | 1. 多いにある | 2. まあある    | 3. 普通 | 4. あまりない   | 5. 全然ない   |
| B. 自 然   | 1. 多いにある | 2. まあある    | 3. 普通 | 4. あまりない   | 5. 全然ない   |
| C. 雰囲気   | 1. 活気がある | 2. にぎわっている | 3. 普通 | 4. 少しさみしい  | 5. さびれている |
| D. 散 策   | 1. 歩きやすい | 2. まあ歩きやすい | 3. 普通 | 4. 少し歩みにくい | 5. 歩みにくい  |
| E. 交通の便  | 1. とても便利 | 2. まあ便利    | 3. 普通 | 4. 少し不便    | 5. 不便     |
| F. まちの魅力 | 1. とてもある | 2. まあある    | 3. 普通 | 4. あまりない   | 5. 全然ない   |

Q17. 下記の名所をご存知ですか？ A~Fそれぞれについて○印でお答えください。

	よく行く	行ったことがある	行ってみたい	名前は知っている	知らない
A. 毘沙門堂					
B. 勧修寺					
C. 随心院					
D. 元慶寺					
E. 四宮地藏(徳林庵)					
F. 大石神社					
G. 琵琶湖疏水					
H. 天智天皇陵					
I. 醍醐寺					

Q18. 山科が観光振興に取り組み、街の魅力をPRしていくことをどう思いますか？

- 多いに賛成      まあ賛成      普通      興味なし      反対 ( <sup>ご意見</sup> )

Q19. 観光振興の取り組みに対し、なんらかの形で参加していきたいと思われませんか？

- 参加したい      機会があれば      イベントなら行く      興味なし ( <sup>ご意見</sup> )

↓山科や清水焼団地について感じていることやご意見があれば自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました





# 山科区 観光調査 アンケート

山科区役所  
京都橘大学 文化政策学部 織田研究室

このアンケートは山科区役所と京都橘大学が合同で山科地域観光調査のために行っているものです。山科の観光について考える上で、今後の参考にさせていただきたく、下記アンケートにお答えいただきますよう、ご協力よろしくお願いたします。アンケート項目が選択式になっている場合は当てはまる箇所に○をつけてください。

**性別** A. 男性 B. 女性    **在住** (            都・道・府・県            市・町・村            区) (海外            )  
**年齢** A. 10代 B. 20代 C. 30代 D. 40代 E. 50代 F. 60代 G. 70代 H. 80歳以上

**Q1.** 本日はどなたと来られましたか？

A. 一人で    B. ご家族と    C. ご友人と    D. 団体で    E. その他 (            )

**Q2.** 交通手段を教えてください。

A. JR京都方面から    B. JR大津・西大津方面から    C. 地下鉄御陵・御池方面から    D. 地下鉄醍醐・六地藏方面から  
E. 京阪電車三条方面から    F. 京阪電車大津方面から    G. タクシー    H. マイカー    I. その他 (            )

**Q3.** 泊まりですか、日帰りですか？

A. 泊まり    B. 日帰り

泊まりの方へ

(1) どの地域に宿泊されましたか、されますか？

A. 山科区内    B. 山科区外の京都市 (            )    C. 京都市外 (            )

(2) どちらに宿泊されましたか、されますか？

A. ホテル    B. 旅館    C. 知人宅    D. 親戚宅    E. その他 (            )

(3) 何泊されるご予定ですか？

A. 1泊    B. 2泊    C. 3泊    D. 4泊    E. 5～9泊    F. 10泊以上

**Q4.** 普段、山科へはどのくらい来られますか？

A. 在住    B. 今回初めて    C. 数年に1回    D. 年に1回    E. 半年に1回    F. 月1回    G. 週1回    H. 週2～3回    i. 週4日以上

来られたことがある方へ

(1) 山科へ来られる主な目的は何ですか？(複数回答可)

A. 観光    B. 知人・親戚宅    C. 趣味・習い事    D. 通勤・通学    E. ビジネス・商談    F. その他 (            )

**Q5.** 山科の観光地は何で知られましたか？(複数回答可)

A. 新聞・雑誌で    B. ポスター・パンフレットで    C. テレビ・ラジオで    D. 知人・友人の紹介  
E. インターネットで    F. 特にない    G. その他 (            )

**Q6.** 山科区内でなにかお土産を買われましたか、買われる予定ですか？(自由記述)

具体的なイメージなどあれば絵も



Q7. 山科区内や山科区周辺の観光施設についてお答え下さい。

	よく行く	行ったことがある	今回行く	名前は知っている	知らない
A. 毘沙門堂					
B. 勤修寺					
C. 随心院					
D. 元慶寺					
E. 四宮地藏 (徳林庵)					
F. 大石神社					
G. 琵琶湖疏水					
H. 天智天皇陵					
I. 醍醐寺					

その他よく行かれるところがあればお書きください。

( )

Q8. 山科のまちの自然や社寺、交通の便など、A~Gに持つイメージについてお答えください。

	大変よい	よい	普通	少し悪い	悪い
A. 自然					
B. 社寺					
C. 雰囲気					
D. 散策					
E. まちの魅力					
F. 交通の便					
G. 店舗・商店					
H. 行事					
I. 食事					
J. 宿泊					
K. 娯楽					
L. 土産物					
M. 案内					

Q9. 山科区の観光について自由にお書きください。

良いと思われるもの

( )

不満に感じたもの

( )

Q10. その他、ご自由にお書きください。

-----

やましな観光台帳（神社）

No	分類	整理番号	施設記入担当者
ふりがな		所在地	
正式名称		TEL	FAX
ふりがな		連絡先住所	連絡先TEL
通称・過去の呼び名など		URL	
社務所	参詣	参詣時間	祈祷料
アクセス		駐車料金 円	駐車台数 普通 台 大型 台
創建時期		中興・移転など	
創建者	祭神		
発祥伝承・言い伝え・縁起など			
歴史		古文書・歴史資料	
社宝・文化財			
みどころ		季節の花木	
ゆかりの人物		ご利益	
		お守り・おみくじ・絵馬など 志納料もお書きください	
年間の主な行事	日 程	行事名	行事解説
やましな観光振興へのご意見			

やましな観光台帳(寺院)

No	分類	整理番号	施設記入担当者
----	----	------	---------

ふりがな	所在 干		
正式名称	TEL	FAX	
ふりがな	別途連絡先	連絡先 TEL	
通称・過去の呼び名など	URL		

	拝観	時間	拝観料 円
--	----	----	-------

アクセス	駐車料金 円	駐車台数 普通 台 大型 台
------	--------	----------------

創建時期	中興・移転など
------	---------

開祖	宗派
----	----

発祥伝承・言い伝え・縁起など
----------------

歴史	古文書・歴史資料
----	----------

寺宝・文化財
--------

みどころ	季節の花木
------	-------

ゆかりの人物	ご利益
	お守・おみくじ・絵馬など 志納額もお書きください

年間の主な行事	日程	行事名	行事解説

やましな観光振興へのご意見
---------------



やましな観光台帳（史跡）

No	分類	整理番号	史跡情報監修者
----	----	------	---------

ふりがな		〒	
名称		所在	
出典元		TEL	FAX
		URL	
管理者	見学 通年	見学時間	見学科
アクセス		駐車料金 円	駐車台数 普通 台 大型 台

推定時期	古文書・歴史資料
創建者	
特徴・記録・伝承など	文化的価値
季節の花木	ゆかりの人物

**写真1**

**写真2**

**写真3**

神社,寺院,旧跡一覧

神社

名称	所在	創建時期	発祥伝承・言い伝え・縁起など
朝日神社 (あさひ じんじゃ)	栗栖野華ノ木町4	1740(元文5)年	この地は徳川三代将軍家光の息女、千代姫が取得し、乙訓郡大山崎妙音山観音寺に寄進された。享保年代に久世郡寺田村、紀井郡富森村、下鳥羽村などから移住した多くの移民によって開拓され、栗栖新田が生まれたと伝えられている。鎮守の神として、1740(元文5)年に朝日神社が創建されたという。
愛宕神社 (あたごじんじゃ)	西野山岩ケ谷町1		山科神社からさらに山の奥へ上った所にある祠。
岩富大明神 (いわとみだいみょうじん)	栂辻東浦町1		京都市東部文化会館から醍醐街道を挟んで東にある街中のお稲荷さん。
岩屋神社 (いわや じんじゃ)	大宅中小路町67	344(仁徳天皇31)年	本社の根源は「奥ノ院」または「岩屋殿」と称する本社後背山の山腹に座す陰陽の両巨巖である。今日の社殿様式のように、定まった参拝設備のなかった時代の「磐座信仰」の名残である。後年宇多天皇の890年頃(寛平年間)、陽巖に天忍穂耳命を、陰巖に栲幡千々姫命を、また岩前小社に大宅氏の祖神として饒速日命を祀った。
大石神社 (おおいし じんじゃ)	西野山桜ノ馬場町116	1935(昭和10)年	忠臣蔵で知られる大石内蔵助の山科隠棲の地に、その忠義に尽くした行いを広く世に広めるため創建された。当時浪曲界の重鎮であった吉田大和之丞(奈良丸)の呼び掛けに応じ、京都府知事を会長とする大石神社建設会や、山科義士会などが組織され、多くの崇敬者が賛同して実現した。
折上稲荷神社 (おりがみ いなり じんじゃ)	西野山中臣町25	712(和銅5)年	お稲荷さんの総本社「伏見稲荷」の稲荷大神が稲荷山の三ヶ峯に降臨した次に降りた地とされる。古くから「伏見稲荷奥宮」として信仰された。「織り上げる」と書くことから、織物の神様として親しまれ、江戸時代には女中女官の守り神とされ、現在も女性守護としての信仰が厚い。
花山稲荷神社 (かざんいなり じんじゃ)	西野山欠ノ上町65	903(延喜3)年	醍醐天皇の夢に宇迦之御魂大神が現れ、勅命を出し、神大市比売大神、大土之御祖大神を加えた三柱の神々を祀った。盛衰を繰り返したが、元禄期に稲荷信仰が隆盛した折、進藤源四郎の寄進により中興した。源四郎は大石内蔵助夫人の姉婿。内蔵助「断食石」や、内蔵助寄進の「鳥居」、「血判石」が境内に残っている。
三之宮神社 (さんのみや じんじゃ)	東野八反畑町47	901~922(延喜年間)年	醍醐天皇の時代に本社殿を建立し、後に醍醐天皇も合祀した。その後甚だしく退廃したが、室町時代の後小松天皇の勅命によって再建された。古くから山科七郷の総鎮守的存在で、1396(応永3)年、後小松天皇より山科郷に「大般若経六百卷」などを下賜され、三之宮宝蔵に納めた。後水尾天皇もまた深く崇敬され、1613年(慶長18年)に社殿を改築、その後、1623年(元和9)年には、勅願所の綸旨を賜わり三之宮と称した。

## 神社,寺院,旧跡一覧

四宮大明神 (しのみや だいまょう じん)	四ノ宮泉水町10	9世紀末(貞観年間)	平安初期に三井寺の目の不自由な僧たちに琵琶を教えたという人康親王を祀る御霊社。江戸時代には毎年、旧暦5月5日の命日に琵琶法師や検校がこの地に集まり琵琶を奉納したという。明治時代、やましな飴や石灰の製造を営んでいた松村與三郎が、大正4年、泉の石垣を整備し人康親王を祀る祠を再興。十禅寺からさらに奥の住宅街の路地を抜けた場所にあり、昭和中期以降、その存在がほとんど知られず祠は朽ちかけている。
十二所神社 (じゅう にしよ じんじゃ)	御陵平林町22		安祥寺の敷地内にある小さな祠。現在は地元、上野周辺の鎮守として町内の方々に守られている。安祥寺のすぐ横にあり、古くは一帯が旧安祥寺領だが、詳しい由緒などは全く分かっていない。
白石神社 (しらいし じんじゃ)	小山大石山	806~810(大同年間)年	桓武天皇の跡を継いだ平城天皇の時代に、朝廷により創建された。もともとは境内にある前方高さ約4メートル、長さ約9メートルの白色巨岩をご神体とした、岩坐信仰の姿をとどめる古社である。後に伊弉那岐命、伊弉那美命を祀り白石大明神と呼ばれた。
天神社 (てんじんじゃ)	大塚大岩町4		菅原道真を祭神とし、古くから農業の繁栄を祈る神社として存在していた。
中臣神社 (なかとみ じんじゃ)	西野山中臣町9		「宇治郡名勝誌」によれば、山科二ノ宮という。倉稻魂命と中臣の祖神である天兒屋根命を祀っている。祀られた時期などは不明で、現在は、西野山の山科神社のお旅所になっている。社は南向きに立ち、祀られているのは中臣の祖神だが、中臣氏との直接の関係はよく分かっていない。
八幡宮 (はちまんぐう)	川田前畑町14		祭神は誉田別命で、この辺りの産土神。創立年代は分からないが、明治5年に村社とされていた。
八幡宮 (はちまんぐう)	勤修寺御所内町94	853(仁寿3)年	祭神は応神天皇、仲哀天皇、神皇皇后。醍醐天皇のとき、藤原維成、頼成らが田畑を寄進したが、応仁、文明の兵乱で古い記録は焼失した。
日向大神宮 (ひむかい だいじんぐう)	日ノ岡一切経谷町29	485~487年	顕宗(けんそう)天皇により筑紫日向の高千穂の神蹟を移して創建された。天智天皇は神田を寄進し、鎮座の山を「日御山」と名付けた。境内の「朝日泉」には、清和天皇の時代、疫病が流行した際に「宮地の清泉の水を万民に与えよ」との神のお告げで病疫から救われた話が伝わる。醍醐天皇が延喜式にて官幣社と定め、中御門天皇、後桃園天皇、光格天皇ら歴代天皇との関わりも深い。徳川家康は神領を加増し、社殿を改造した。社殿は京都市指定文化財。
宮道神社 (みやじ じんじゃ)	勤修寺仁王堂町	898(寛平10)年	宇治郡を本拠とした氏族宮道氏の祖神、日本武尊、その子稚武王を祭神として、醍醐天皇の勅願により創祀された。宮道大明神・二所大明神とも称され、醍醐天皇をめぐる華やかな物語を今に伝える古社である。平安時代初期、宇治郡司、宮道弥益は醍醐天皇の生母、藤原胤子の祖父で、その屋敷を寺としたのが勤修寺であると伝える。

神社,寺院,旧跡一覧

諸羽神社 (もろは じんじゃ)	四宮中在寺町17	862 (貞観4) 年	清和天皇の勅願により創建された。現在は安朱や四ノ宮など地元の鎮守として親しまれている。祭神は初め天児屋根命と天太玉命の二柱であった。この二柱の神は瓊々杵命が天孫降臨のときの左右補翼の神で、両羽大明神と称された。後に八幡宮、伊弉諾命、素盞鳴命、若宮八幡宮を新たに祀り、全六柱となり、「両羽」の文字も「諸羽」と改称された。
山科神社 (やましな じんじゃ)	西野山岩ヶ谷町1	897 (寛平9) 年	宇多天皇勅命により創建された。この地の豪族、宮道氏の祖神、産土神として、かつて「山科一ノ宮」とも呼ばれ、人々の崇敬を受けてきた。盛時には、社殿の規模も大きかったが、度々の兵火で焼失し、現在は三間社流造の本殿、拝殿、神庫などが残っている。本殿の造営は古く、室町時代後期と考えられている。大石良雄が、山科の里に隠棲していた際、奥の院「岩屋神社」に参籠し大願成就を祈ったとされる。
山科豊川 稲荷神社 (やましな とよかわ いなり じんじゃ)	御陵大岩15		愛知県豊川稲荷社の分霊。祀っている豊川茶枳尼眞天は女神で、稲穂を荷いて宝珠を掲げ白狐にまたがる姿をしている。福德の神・開運隆盛の神、興産の神、生産(秀でた人物・財産を生み出す)の神様として、古来より人々に広く信仰された。今川義元・織田信長・豊臣秀吉・徳川家康などの武将が帰依した。以前は円山公園音楽堂の南東にあり、祇園町衆の信仰を集めていたが、永興寺と一緒に山科の疏水北側に移転した。
六所神社 (ろくしょ じんじゃ)	北花山大峰町		伊勢皇大、熱田、賀茂、八幡、春日、日吉の6神を祀る。かつては元慶寺の地主神であり、僧正遍昭が各地から勧請してきたものと伝わる。
六所神社 (ろくしょ じんじゃ)	上花山旭山町29	1543 (天文12) 年	当時、山科を統括した比留田氏が地域の守り神として創建。爾来、上花山住民の安寧の拠り所として尊崇される。昭和47年には、上花山水利組合をはじめ、氏子や篤志家の浄財により本殿を再建。併せて、祝詞舎および社務所を新築。伊勢皇大、熱田、賀茂、八幡、春日、日吉の6神を祀る。
若宮八幡宮 (わかみや はちまんぐう)	音羽森廻町36	662~671年	天智天皇が山科の地を訪れたとき、八幡神を勧請したと伝えられる。当初は応神天皇、仁徳天皇、神功皇后の三神を祀っていたが、天武天皇の孫である粟津王の末裔によって神社は守り継がれ、後にその遠祖天武天皇と、末社である出雲社の祭神、素戔鳴尊が合祀された。
若宮八幡宮 (わかみや はちまんぐう)	西野山岩ヶ谷町1		百々町から滑石道へ合流する道筋の途中にある。



神社,寺院,旧跡一覧

寺院

名称	所在	創建時期	発祥伝承・言い伝え・縁起など
阿弥陀寺 (あみだじ)	御陵天徳町19	奈良時代(7世紀末)	行基が開創し、その後天台宗となったが、鎌倉時代に知恩院11世円智が再興し、浄土宗となった。
阿弥陀寺 (あみだじ)	北花山寺内町9		浄土宗。東山の阿弥陀峯からこの地に移され、本尊の阿弥陀如来銅像は平重盛の持仏と伝える。
安祥寺 (あんしょうじ)	御陵平林町22	848(嘉祥元)年	仁明天皇の女御であった藤原順子の発願で創建された。開基は恵運。平安時代は醍醐寺同様、上寺と下寺があった。東寺観智院に五大虚空蔵菩薩像が移され、京都国立博物館に重要文化財として木造五智如来坐像が寄託展示されている。
安楽寺 (あんらくじ)	小山小川町51	1596(慶長元)年	僧教春を開基とする浄土真宗の寺。本堂の扁額「寂如上人賜之菩提場 春庭」の「場」は道場、「春庭」は住職の名を意味する。
岩屋寺 (いわやじ)	西野山桜ノ馬場町96	平安時代	平安時代は天台宗比叡山三千坊の一つに数えられたが、1655(明暦元)年、曹洞宗の寺として再興された。本尊の不動明王は千年以上前のもので智証大師自らの作と伝えられる。1700年頃、大石良雄が吉良邸討ち入りという大事を胸中に秘し過ごした家の廃材で建てた茶室「可笑庵」や、手植えの梅の木、遺愛の机や硯などが残る。大石内蔵助はじめ四十七士の木像や、浅野内匠頭はじめ四十七士の位牌も見学できる。
永興寺 (えいこうじ)	御陵大岩15		曹洞宗。もともと鹿ヶ谷にあったが、明治時代に村上素道が、御陵大岩に移した。大阪住吉での道路拡張の際、伐採された神木で作った木魚は、高さ95cm周囲2m80cmで日本最大。
華山寺 (かざんじ)	北花山河原町33	平安時代初期 (9世紀半ば)	清和天皇の命により建てられた当初は、天台宗の寺であった。その後戦火や災害など度重なる火災で荒廃していたが、江戸時代の1658(万治元)年、臨濟宗妙心寺派の雷峰が、愚堂国師に感銘を受けて、再興した。愚堂国師は、後水尾天皇、徳川家光、春日局、伊達政宗、宮本武蔵らの帰依を受けた禅傑。地元の方がコンクリート廃材で作った多数の地藏が並び、人気を呼んでいる。
勧修寺 (かじゅうじ)	勧修寺仁王堂町27-6	900(昌泰3)年	『今昔物語』に登場する美談が史実の由緒として知られる寺院。藤原北家冬嗣の孫、高藤が鷹狩りのため山科を訪れ、嵐に遭い宮道家に宿をとった。高藤はその家の娘、列子を見初め結ばれる。数年後訪れると女子、胤子が誕生しており母子共に都へ連れ帰った。胤子の夫が後に宇多天皇となり、胤子は醍醐天皇を生む。900(昌泰3)年、醍醐天皇は生母である藤原胤子亡き後、その追善として実家のある山科に勧修寺を創建。境内地は2万4480平方メートルに及んだとされる。高藤の子孫、紫式部は、この二人の出会いを参考に源氏物語の「明石の君」を書いたとの説もある。

## 神社,寺院,旧跡一覧

川崎大師 京都別院 笠原寺 (かわさきだいし きょうとべついん りゅうげんじ)	大宅岩屋殿2	1979 (昭和54) 年	弘法大師1150年御遠忌 (昭和59年) の記念事業として開山主である笠原政江尼が発願し, 昭和58年10月に建立された。大本山川崎大師平間寺の京都別院として, 本尊, 厄除弘法大師の分身を奉安している。笠原政江尼は, 悩める女性たちに強く生きる力を持ってもらおうと, 誰でもが尼僧の体験をできる「一日尼僧修行」を始めた。
歓喜光寺 (かんきこうじ)	大宅奥山田10	1299 (正安元) 年	開山は一遍上人の実弟で徒弟の聖戒上人。八幡に善導寺を開いた。1299 (正安元) 年, 九条忠教が京都六条河原の源融公邸跡400m四方の土地を寺に寄進, 堂舎造営して河原院「歓喜光寺」となり, 近く天満宮を鎮守に菅公像を安置した。その後, 秀吉により寺町錦小路に移転, 1907 (明治40) 年, 東山五条にあった法 (豊) 国寺と合併, 1975 (昭和50) 年に本堂と地藏堂は現在地へ移された。
元慶寺 (がんけいじ)	北花山河原町13	868 (貞観10) 年	868 (貞観10) 年に僧正遍昭が清和天皇の勅を奉じて建立した天台宗の寺。僧正遍昭は桓武天皇の孫にあたり, 紀貫之撰の六歌仙や藤原公任撰の三十六歌仙の一人。度々の火災や応仁の乱で諸堂が焼失してしまったが, 安永年間 (1772~1781) に再興され, 現在に至る。896 (寛和2) 年藤原兼家と道兼らの陰謀により, 花山天皇が当寺で落飾された。法皇は西国三十三ヶ所霊場の中興の祖として知られることから, 現在は番外札所となっている。
光久寺 (こうきゅうじ)	厨子奥若林町22	室町時代	花園山は, 僧浄空が蓮如上人に花を贈って感謝され, つけてもらった名前であると伝わる。
光照寺 (こうしょうじ)	音羽伊勢宿町43	1536 (天文5) 年	粟津作治郎元道を開基とし, 蓮如の隠居所「南殿」の跡に建てられた寺。当時は「光称寺」であったらしく, 寺に伝わる古い什物にはすべて「称」の字が使われている。粟津元道は, 河内道顕とともに, 蓮如上人の念願であった山科本願寺, 寺内町の建設に推進的な役割を果たした一人。
護國寺 (ごこくじ)	竹鼻竹ノ街道町72	1643 (寛永20) 年	日勇上人を開祖, 妙慧院殿を開基とする。明治初頭まで, 日蓮宗の修業のための学寮であった。昭和37年に現在地へ移転。妙見大士は開運や盗難除け守護として, また火難避けの地主神としても親しまれている。
西宗寺 (さいしゅうじ)	西野広見町11	1481 (文明13) 年	海老名五郎左衛門 (信忠) が, 蓮如上人に深く帰依して, 所領の地や屋敷を寄進し, その弟子となり法名浄乗を賜わる。1481 (文明13) 年10月18日, 浄乗は蓮如上人より, 方便法身の尊形 (阿弥陀仏の絵像) を賜わり, 西宗寺初代の住職となる。蓮如の言葉「鶯でさえ法を聞けと鳴く」より, 放鶯の銅像がある。

神社,寺院,旧跡一覧

西念寺 (さいねんじ)	竹鼻西ノ口町39	江戸時代初期	竹鼻にあった円信寺、地蔵寺と並ぶ「竹鼻三ノ堂」の一つ。本尊は聖徳太子作と伝わる阿弥陀仏で西雲が再興した。現在の住職で第50代目。門前には寄進された地蔵や、境内にはかなり古い時代の大きな石仏がある。
十禅寺 (じゅうぜんじ)	四宮泉水町17	859(貞観元)年	仁明天皇の第四の宮、人康親王を開山とし、この辺りを四宮というのは、28歳にて失明、隠棲された親王創建のこの寺からの発祥といわれる。当時大きな泉水があり、泉水町という町名が今に残る。度々の戦火で焼失し、すっかり荒廃していたのを紅玉真慶が再興、1655(明暦元)年、女帝、明正天皇が霊夢を見て堂を寄進した。
秀典寺 (しゅうてんじ)	安宗東海道町55	江戸時代初期 (寛文年間)	日蓮宗。日孟によって創建。題目宝塔と鬼子母神を本尊としている。
浄土真宗本願寺派 山科別院 (じょうど しんしゅう ほんがんじは やましな べついん)	東野狐藪町2	1732(享保17)年	本願寺中興の第八代蓮如上人が開創した、山科本願寺の歴史を受け継ぐ別院「西御坊」として親しまれている。1732(享保17)年、第15代住如上人が北山別院の旧堂を山科へ移築し聖水山舞楽寺とした。永く本願寺に伝わるご自作の蓮如上人像を本山より移しては、報恩講や中宗会の法要が勤修されている。1884(明治17)年、第21代明如上人は、山科別院中宗堂を本山中宗堂代と定め、以来山科の地に永置されることとなった。
稱名寺 (しょうみょうじ)	東野百拍子町42	1661(寛文元)年	音羽川上流から出現した鍬跡観音(千手観音)を安置する寺として知られる。音羽川上流の小山にある明教寺の本尊であった観音木像が嵐で東野の里に流れ着き、農民たちは明教寺へ像をお戻しした。けれども次の嵐にても、東野の農民が水田を耕そうと鍬を入れるとコツンと何かに当たり、見ると再び明教寺の観音様が流れ着いていた。以来、この地の鎮守観音として大切に保存されている。背中にはそのときの鍬の傷が残り「鍬跡観音」の名で呼ばれた。
青蓮院將軍塚 大日堂 (しょうれんいん しょうぐんづか だいにちどう)	厨子巖花鳥町28	明治時代中期	青蓮院の分院。明治中期に大日如来の石像が発見され、お堂が建てられた。京都盆地の東に位置し、和氣清麻呂が平安京候補地として進言、桓武天皇が遷都を決めた場所と伝わる。直径約20m、高さ約2mの塚が残る。桓武天皇が都鎮護のため、高さ約2.5mの將軍像に鎧甲を着せ、鉄の弓矢を持たせ、太刀を帯させて、塚に埋めるよう命じたことから、將軍塚の名で知られる。

神社,寺院,旧跡一覧

<p>真宗大谷派 山科別院長福寺 (しんしゅう おおたには やましなべついでん ちょうふくじ)</p>	<p>竹鼻サイカシ町13-17</p>	<p>1732 (享保17) 年</p>	<p>本願寺中興の第8代蓮如上人が開創した山科本願寺の歴史を受け継ぐ別院。通称「お東さん」や「東御坊」などの名で親しまれている。東本願寺17代目である真如上人が、1732 (享保17) 年に旧跡地の北側の竹鼻村領を買い取り、御坊の建立に取りかかった。落慶は1736 (元文元年)、東本願寺にあった長福寺を移転して「山科御坊」とした。</p>
<p>瑞光院 (ずいこういん)</p>	<p>安朱堂ノ後町92</p>	<p>1613 (慶長18) 年</p>	<p>堀川鞍馬口、浅野長政の屋敷跡にあった赤穂浅野家の祈願寺が、1962 (昭和37) 年、鎮守である浅野稻荷と一緒に山科に移転。浅野内匠頭長矩の墓の傍らに、切腹を免れた寺坂吉右衛門以外の四十六士の遺髪塔がある。</p>
<p>隨心院 (ずいしんいん)</p>	<p>小野御霊町35</p>	<p>991 (正暦2) 年</p>	<p>弘法大師の8番弟子、仁海僧正を開基とする真言宗善通寺派の大本山。仁海は勸修寺ゆかりの宮道家出身。ある夜、亡き母が牛に生まれ変わっている夢を見た仁海は、伏見鳥羽でその牛を見つけ小野へ連れて帰ったが、世話の甲斐なく死に至る。その牛皮に両界曼荼羅の尊像を刻んで本尊にしたことから、正式名を「牛皮山曼荼羅寺」といい、尾を埋めた山を牛尾山と呼んだ。五代増俊のとき、子房隨心院とした。小野小町屋敷跡の地として伝えられ、鏡がわりにのぞきこんだ「化粧井戸」や、多数届いた恋文を埋めた「文塚」が伝わっている。3月の終わりには、梅園が開園され、はねず踊りが催される。</p>
<p>雙林院 (そうりんいん)</p>	<p>安朱稲荷山町18-1</p>	<p>1665 (寛文5) 年 創建</p>	<p>公海が創建した毘沙門堂塔頭の一つで、阿弥陀如来を本尊としていたが、1868 (明治元) 年に、聖天堂を建立して大聖歓喜天を祀り本尊とした。正面には不動堂があり、不動明王は、1883 (明治16) 年、廻峰行者であった雙林院の住職が、無動寺より勧請したもので、比叡山焼き討ちにあった多くの仏像の各部を合体させた像。平安初期には、この辺りは安祥寺領に属していた。</p>
<p>大乘院 (だいじょういん)</p>	<p>小野御霊町52</p>	<p>1018 (寛仁2) 年</p>	<p>牛皮山曼陀羅寺 (隨心院) の塔頭。</p>
<p>大乘寺 (だいじょうじ)</p>	<p>北花山大峰町38-1</p>	<p>1800年頃</p>	<p>初秋の頃、住職夫妻の手植えによる千本の酔芙蓉が境内を彩る。禅宗系の寺として発祥し1800年頃に男僧によって建立された。2代目以降、約20名の尼僧に代々継がれた。江戸時代に法華宗の本能寺を本山として改宗。平成10年頃、住職松崎恵浄尼が70歳を過ぎた頃、本能寺執事長であった現住職が、境内や参道を開墾、整備し、観音めぐり、百人一首めぐりの寺として復興した。境内には大仏師長岡和慶作の酔芙蓉観音像をはじめ、近藤清一氏が寄贈した光孝天皇や源宗子の歌碑がある。</p>



神社,寺院,旧跡一覧

大立寺 (だいらゅうじ)	安朱東海道町56	1600 (慶長5) 年頃	本山立本寺の13世の貫首になられた圓通院日純上人を開山上人とする。創草以来、天台宗五大門跡の1つ毘沙門堂門主と親交があった。「圓通殿」の扁額は、準后宮門主のご真筆とされている。日蓮聖人550遠忌文政10年には、御門主より菊御紋入釣提灯等と免状写を賜わる。
當麻寺 (たいまじ)	御陵鳥ノ向町29	1234 (天福2) 年	鎌倉時代に、法然上人の弟子であった西山(証空)上人が創建。本尊は恵心僧都源信作の平安後期の丈六阿弥陀如来坐像。府指定文化財で、山科大仏と呼ばれる。境内正面の聖観音は通称「やすらぎ観音」。現在は総本山禅林寺永観堂の末寺。
徳林庵 (とくりんあん)	四ノ宮泉水町16	天文年間	1780 (安永9) 年発行の「都名所図会」に「廻地蔵は諸羽の東にあり、小野篁の作にして、七道の辻の其一つなり。平清盛の命ありて、西光法師の建立なり」とある。平安時代の地蔵像を安置し、山科地蔵とも、山科廻地蔵とも呼ばれる。地蔵尊は当地の住民に守られていたが、郷士四宮善兵衛の願いで、1706 (宝永3) 年以降は徳林庵が守っている。徳林庵の開山は雲英正怡禅師。南禅寺の住職にして人康親王を先祖とする四宮家出身の禅師が、1540年頃、隠居のために創建。お堂の裏手に人康親王と蟬丸2人の供養塔が建つ。
毘沙門堂 (びしゃもんどう)	安朱稲荷山町1	703 (大宝3) 年	8世紀初頭、文武天皇の勅願により、行基が加茂川の西岸、出雲路辺りに創建した寺。応仁の乱や信長の焼き討ちなど幾度も戦火にあい、1665年、徳川幕府の政治顧問であった天海が再興に着手、弟子公海が完成させた。本堂、霊殿などの建物が並び、うち宸殿は後西天皇の旧殿を賜ったもの。狩野益信による障壁画116面のうち、96面は京都市指定文化財、8面は登録文化財。遊び心のある逆遠近画法の「動く襖絵」は目線を一定にしてその前を歩くと絵が動いているように見え、興味深い。後西天皇の皇子、公弁法親王が毘沙門堂に入り、門跡寺院となる。「心字の池」を臨む庭園「晩翠園」は四季を通じて美しい。
福應寺 (ふくおうじ)	上花山講田町71	平安時代初期	元慶寺を開創された僧正遍昭が、広く衆僧を集めて講席を開かれた会所と伝えられている。
仏光院 (ぶっこういん)	勸修寺仁王堂町16	1947 (昭和22) 年	大石順教尼は本名を大石よねといい、大阪堀江の名妓「妻吉」として知られたが、明治38年17歳のとき、乱心した養父中川萬次郎による一家6人斬殺事件に巻き込まれ、両腕を切り落とされた。苦難と失意のなか、カナリアがくちばしだけで自在に雛を育てる姿に悟りを得て、筆をくわえて書画を描きはじめた。そのアトリエとした福祉施設が寺の始まりで、昭和22年、仏光院となった。

神社,寺院,旧跡一覧

<p>法蔵寺 (ほうぞんじ)</p>	<p>音羽南谷1</p>	<p>778 (宝亀9) 年</p>	<p>寺伝では、垂仁天皇の時代（紀元前29年～西暦70年頃）、大國ノ不遲が、山上に音羽山権現社を祀ったのが始まりとされる。伝え聞く金色に輝く一筋の水の源を求めて、延鎮がその山へ分け入った。その時すでに修業をしていた行叡居士と会った聴呪の滝をはじめ仙人窟、金生水、履岩など、当寺の縁起に登場する場所が、牛尾登山道に今も点在。坂上田村麻呂は780 (宝亀11) 年妻の病気に効く薬をと鹿を求めこの音羽山に入り延鎮に出会った。狩りの殺生を戒められ、延鎮に帰依して、より都に近い東山の地に清水寺を創建した。古代からの二大宗派の山岳信仰の行場として今日に至る。</p>
<p>本圀寺 (ほんこくじ)</p>	<p>御陵大岩6</p>	<p>1253 (建長5) 年</p>	<p>1971 (昭和46) 年に疏水の北岸へ移転された日蓮宗の寺。日蓮が鎌倉松葉ヶ谷に住み、布教した道場「法華堂」を始めとする。1263 (弘長3) 年、大光山本国土妙寺として創立された宗門史上最初の祖跡寺院で、道場では日蓮が立正安国論の国諫運動を展開した。1345 (貞和元) 年、光厳天皇の勅諭により、京都六条に広大な寺地を賜り勅願霊場として栄えた。数代におよぶ天皇の綸旨を所蔵し、足利尊氏や加藤清正、豊臣秀次の母、水戸光圀らが帰依したとされる。</p>
<p>妙応禪寺 (みょうおうぜんじ)</p>	<p>御陵別所町77</p>		<p>元は、御陵山または竜徳山明王寺と号した。今は黄檗宗に属する。境内には、天智天皇陵にあった小祠及び右灯笼などが移されている。</p>
<p>明教寺 (みょうきょうじ)</p>	<p>小山御坊ノ内町29</p>	<p>1496 (文明元) 年</p>	<p>小山の郷土、中川喜平治が、本願寺第7代存如に帰依し、玄入と名乗って創建した浄土真宗本願寺派の寺。子の玄鎮も8代蓮如に帰依した。もとの本尊は千手観音であったが、大雨で下流の里へ流れ、一度は本堂へ戻されたが、再び大雨で同じ地に流れ着いた。縁のあることだろうと、以降は、東野の稱名寺で「鍬跡観音」として安置され、明教寺では写真を飾っている。</p>
<p>妙見寺 (みょうけんじ)</p>	<p>大塚南溝町3</p>	<p>平安時代初期</p>	<p>平安遷都時に祀られた北斗堂に由来するとの伝承を持つ。1726 (享保11) 年頃、眼病に靈験あらたかと喧伝され、多くの参詣人を集めるようになった (月堂見聞集)。千年以上前の作といわれる「妙見さん」像は33年に1回開帳される。奈良街道から当寺の入口に「妙見宮」の石灯笼が建っている。</p>

神社,寺院,旧跡一覧

遺跡

名称	所在	推定時期	特徴・記録・伝承など
朝日稲荷須恵器窯跡 (あさひいなりすえきかまあと)	上花山旭山町	古墳時代後期	完存。窯跡。
安朱遺跡 (あんしゅいせき)	安朱ほか	縄文・飛鳥～ 鎌倉時代	集落跡。縄文時代の土器棺墓・飛鳥時代の 竪穴住居跡・平安時代の木槨墓などが出 土。
牛尾須恵器窯跡 (うしおすえきかまあと)	御陵大岩町	古墳時代後期	窯跡だが全壊。
大岩須恵器窯跡 (おおいわすえきかまあと)	御陵大岩	古墳時代後期	窯跡。本圀寺西側の崖面に焼土や灰が露呈 する。
大塚遺跡 (おおつかいせき)	小山	奈良前期～ 平安時代前期	集落跡。音羽中学校の調査で竪穴住居跡4 戸・掘立柱建物2棟などが検出されてい る。
大峰須恵器窯跡 (おおみねすえきかまあと)	北花山大峰町ほか	古墳時代後期	半壊。2基が確認されている。1基は全長 約11m・幅約1.5m。窯跡。
大宅遺跡 (おおやけいせき)	大宅中小路町ほか	縄文時代	散布地。
大宅廃寺瓦窯跡 (おおやけはいじがようあと)	大宅向山	奈良時代前期	大宅廃寺へ瓦を供給した瓦窯跡。
大宅廃寺境内瓦窯跡 (おおやけはいじけいだい がようあと)	大宅鳥居脇町	奈良時代後期	名神高速道路の側道の立会調査でロストル 式平窯1基を発見した。
北花山遺跡 (きたかさんいせき)	北花山大峰町	縄文時代	散布地。縄文時代の叩石と推定される石器 を採取。
北花山窯跡 (きたかさんかまあと)	北花山大峰町		窯跡。花山の西斜面、稚児池の北方で炭窯 と推定される窯体を発見。
熊ヶ谷遺跡 (くまがやいせき)	四ノ宮熊ヶ谷		製鉄遺跡。山間部の谷あたりに立地する。
坂尻須恵器窯跡 (さかじりすえきかまあと)	上花山旭山町飛地	古墳時代後期	窯跡、全壊。五条トンネル手前西側、マン ション付近、元東急イン敷地内。
左義長町遺跡 (さぎちょうちょういせき)	西野左義長町ほか	弥生～古墳時代前期	集落跡。山科本願寺跡と重複する。立会調 査によって竪穴住居跡1戸・土壇状遺構1 基が確認された。
四手井城跡 (しでいじょうあと)	厨子奥矢倉町ほか	室町時代	牛尾街道と厨子奥本通交差点付近の平城 跡。盆地北部に造られた四手井氏居城。
芝町遺跡 (しばまちいせき)	四ノ宮ほか	縄文・弥生・奈良	山科盆地の北東部、丘陵の裾部に広がる散 布地。
天智天皇陵付近須恵器窯跡 (てんじてんのうりょう ふきんすえきかまあと)	御陵上御廟野町 ほか	古墳時代後期	天智天皇陵内に存在する窯跡。
堂ノ山遺跡(どうのやまいせき)	大宅堂ノ山		散布地。詳細不明。
中臣遺跡 (なかとみいせき)	勸修寺東栗栖野町 ほか	縄文～室町時代	山科盆地の山科川、旧安祥寺川合流点北方 の栗栖野丘陵を取り巻く一帯に広がる縄文 ～平安まで続く複合遺跡。
後山階陵遺跡 (のちのやましなりょういせき)	御陵沢ノ川町ほか	奈良時代前期	山間部を流れる安祥寺川に面した製鉄遺 跡。後山階陵造営時に一部破壊されてい る。

## 神社,寺院,旧跡一覧

日ノ岡堤谷須恵器窯跡 (ひのおかつつみだに すえきかまあと)	日ノ岡堤谷町ほか	古墳時代後期	窯跡。近年発掘調査を行い窯窯1基(全長6.7m)と灰原を確認。7世紀代の須恵器が多数出土した。
御陵大岩町遺跡 (みささぎおおいわちょういせき)	御陵大谷町ほか	奈良時代前期	本圀寺東側の丘陵の谷間に広がる製鉄遺跡。水車跡盛土堤が残る。完存。
山科窯跡群 (やましなかまあとぐん)	御陵日ノ岡全域	古墳時代後期	瓦窯跡。山科盆地西北部の東山山麓に点在する須恵器窯跡群。6世紀から7世紀にかけて操業されていた。
六所神社遺跡 (ろくしょじんじやいせき)	北花山大峰町	平安時代前期	散布地。

## 古墳

名 称	所 在	推定時期	特徴・記録・伝承など
旭山古墳群 (あさひやまこふんぐん)	上花山旭山町ほか	古墳時代後期	標高240mの六条山山頂から南斜面にかけて方墳や円墳が29基点在, 方墳が主で一辺約6~9m。
稻荷塚古墳 (いなりづかこふん)	西野山中臣町	古墳時代後期	折上稻荷神社の境内にある古墳。直径18m, 高さ3mの円墳で, 完存する。
皇塚 (おうづか)	大塚西浦町		岩屋神社神輿のお旅所として知られる場所。かつて大塚古墳と称される直径20mの円墳が存在したが, 現在は皇塚の石碑が建ち, その一部が残る。地元では明治期に周辺の民家から桓武天皇関係の書類などが多数出て燃やしたと伝わり, 桓武天皇陵説がある。
大岩古墳 (おおいわこふん)	御陵大谷町	古墳時代後期	円墳。凹状土壙に岩が散在する。
大宅古墳 (おおやけこふん)	大宅鳥居脇町	古墳時代後期	大宅廃寺内にて検出。直径13mの円墳で内部主体は横穴式石室。
花山神社古墳 (かさんじんじやくふん)	川田山欠ノ上	古墳時代	花山神社境内に稻荷塚として残る。
天智天皇山科陵 (てんじてんのう やましなのみささぎ)	御陵上御廟野町	699(天武3)年	「帝王編年記」「扶桑略記」には, 狩りに訪れた際に没し, 「沓の落ちていた所を領地と定めた」と記載している。
中臣十三塚 (なかとみじゅうさんづか)	西野中臣町ほか	古墳時代後期	円墳4基以上あったが, 2基を残し他は全壊。1基は墳丘径8mで横穴式石室。
中鳥居古墳 (なかとりいこふん)	西野山中鳥井町	古墳時代後期	形は円墳であったが, 全壊している。
西野山古墓 (にしノやまこぼ)	西野山山田ほか	奈良時代	山科盆地を一望できる丘陵端部に位置し, 大正8年に発見された。正倉院宝物に匹敵する大刀(国宝)などが見つかると平安初期の上級貴族の墓と考えられている。坂上田村麻呂が埋葬されていたとの説が有力となっている。
後山階陵 (のちのさんかいりょう)	陵沢ノ川町		仁明天皇皇后, 藤原順子の墓。安祥寺を創建し, 871(貞観13)年63歳で崩御。ゆかりの地に静かに葬られている。
宮道古墳 (みやじこふん)	勸修寺西栗栖野町	古墳時代後期	勸修寺縁起や今昔物語に描かれる平安時代のたまのこし伝説の主人公, 宮道列子の墓と伝わり, 直径26m, 高さ3.5mの円墳で, 完存する。



神社,寺院,旧跡一覧

向山古墳 (むかいやまこふん)	大宅向山	古墳時代後期	標高58mの丘陵頂部に位置する古墳。直径10mの円墳だが、半壊している。
--------------------	------	--------	--------------------------------------

墓

名称	所在	推定時期	特徴・記録・伝承など
圓如(円如)上人墓 (えんによしょうにんはか)	小山大石山	1522年頃	圓如は、本願寺第9代實如の次男として山科にて生まれ、12歳のとき、兄照如の死を受け跡継ぎとして得度。高齢の父實如に変わって教団の実務を執り、北陸門徒に対し一揆を禁止したり、一門一家制を設けるなど改革に取り組んだ。9代存命の折りに33歳の若さで亡くなり、圓如の子、證如が第10代を継いだ。
勸修寺宮墓 (かじゅうじみやほか)	勸修寺南谷町	1700年頃	勸修寺歴代の墓。宮内庁管轄だが道路より奥まった場所にあり、近年ずいぶん荒れている。幕末に勸修寺で得度後復職し、御所内で王政復古と開国を促した山階宮晃親王の齒髪塔がある。
坂上田村麻呂墓伝承地 (さかのうえのたむらまろのはかでんしょうち)	勸修寺東栗栖野町	古墳または平安時代前期	古墳時代後期の円墳。坂上田村麻呂の墓と伝わっていたが、平成19年に西野山古墳の可能性が立証された。
人康親王墓 (さねやすしんのうはか)	四ノ宮泉水町	870年頃	若くして両目の視力を失い山科に隠棲したと伝わる仁明天皇の第4皇子。四ノ宮の地名の由来といわれ、人康親王が創建した十禅寺の裏に宮内庁御陵がある。
實如(実如)上人墓 (じつによしょうにんはか)	東野中井上町	1550年頃	亡くなった蓮如上人の跡継ぎとして、第8子、41歳であった實如が本願寺第9代となった。
證如(証如)上人墓 (しょうによしょうにんはか)	東野中井上町	1560年頃	實如の子、円如の死は實如より早く、實如亡き後、わずか10歳の證如が本願寺第10代を継いだ。
僧正遍昭墓 (そうじょうへんじょうはか)	北花山中道町	890年頃	僧正遍昭は、桓武天皇の子、良岑安世の第二子。紀貫之撰の六歌仙や藤原公任撰の三十六歌仙の1人。「宇治郡名勝史」には、890(寛平2)年の正月に亡くなり、墓は老木生い茂る森の中に1個の岩石と1株の桜があると書かれている。
宮道列子墓 (みやじのたまこはか)	勸修寺西栗栖野町	910年頃	平安期の山科の豪族宮道弥益の娘。藤原高藤夫人となり、娘胤子は後の宇多天皇と結婚し、醍醐天皇を生んだ。
宮道夫妻墓 (みやじふさいはか)	大宅山田	900年頃	『伊勢物語』で藤原高藤が鷹狩り先で雷雨に遭い駆け込んだ家の主人、宮道弥益とその妻の墓。京都橘大学へ上る坂道の左側、大宅寺の廃墟前にある。

## 神社,寺院,旧跡一覧

藤原高藤墓 (ふじわらのたかふじはか)	勸修寺下ノ茶屋町	900年頃	勸修寺の東南にある小高い鍋岡山の山頂に、石碑が立っているが、道はない。藤原高藤は、冬嗣の子、良門の次男。宮道列子との間にできた胤子を後の宇多天皇に嫁がせ、醍醐天皇の外戚となった。勸修寺流藤原氏の祖で以降子孫は宮廷官僚として活躍。
蓮如上人御廟所 (れんによしょうにん ごびょうしょ)	西野大手先町	室町時代	1499(明応8)年に山科本願寺で死去。現在、墳形が八角形の墓が残っている。この場所は、山科本願寺の正面門のあった辺りと伝わっている。
吉田初三郎墓 (よしだはつさぶろうはか)	北花山六反田町	1955(昭和30)年	吉田初三郎は、自らを大正の広重と称して、独特の鳥瞰図を用いた観光名所案内図を手掛けた人物。大正2年には京阪電車本線、1915(大正4)年には京津線の案内図やパンフレットを手掛けた。以降は全国的に活躍した。
輪王寺宮墓 (りんのうじのみやはか)	安朱稲荷山町		山科聖天の名で知られる毘沙門堂塔頭の一つ、双林院の背後にある。石段の参道両側には石灯笼が美しく並び、その奥に公弁法親王はじめ、13基の輪王寺宮墓石がたたずんでいる。

## 供養塔

名 称	所 在	推定時期	特徴・記録・伝承など
人康親王供養塔 (さねやすしんのうくようとう)	四ノ宮泉水町	鎌倉時代	徳林庵の開祖、雲英正怡禅師が人康親王を偲んで建てたものと伝わる。雲英は人康親王の子孫で四ノ宮家出身。
坊塚 (ぼうつか)	四ノ宮中在寺町	鎌倉時代	疏水公園からジグザグ道を降りた、人康親王山荘跡碑の横にある供養塔。古いものだが、誰のものかは全く分からない。諸羽神社の中山宮司の話では、高僧が眠っていると伝わっており、境内地から発見された古い時代の位牌をこの塚に埋めたという。
名号碑 (みょうごうひ)	日ノ岡朝田町	1717(享保2)年	東山清水坂の安祥院の僧木食養阿が、京都11ヶ所の無常所(人を葬ったところ)を寒念仏回向(寒中の30日間、念仏を唱え巡ること)をし、その満行にあたり供養のため建立した碑の一つ。元は九条山辺りの刑場跡近くに刑死者の永代供養を兼ねて建てられていたと思われる。

## 塚

名 称	所 在	推定時期	特徴・記録・伝承など
安祥寺経塚群 (あんしょうじきょうつかぐん)	御陵安祥寺町	平安時代後期	標高400mの安祥寺山山頂部に3基が点在する。詳細は不明であるが3基は半壊または全壊である。

## 神社,寺院,旧跡一覧

大宅一里塚 (おおやけいちりづか)	大宅甲ノ辻町	1604 (慶長9) 年	高さ1.8m, 根周り約5m。街道沿い一里毎の目印として築かれた塚に、榎が植えられている。市内唯一現存の塚。
大蛇塚 (だいじゃつか)	西野東山・大宅奥山	1985 (昭和60) 年	1313 (正和2) 年, 蛇ヶ淵に棲んでいた大蛇を内海浪介景忠が退治した場所といひ、牛尾山のふもとの集落, 小山の内海家に伝わる「大蛇退治伝説」をもとに建てられた大蛇の供養塚。

## 寺院跡

名 称	所 在	推定時期	特徴・記録・伝承など
安祥寺上寺跡 (あんしょうじかみでらあと)	御陵安祥寺山 国有林	～鎌倉時代	安祥寺山の中腹, 標高320m付近の平坦地に遺跡は立地する。仁明天皇女御, 藤原順子によって造営された。
安祥寺下寺跡 (あんしょうじしもでらあと)	御陵安祥寺町ほか	848 (嘉祥元) 年	仁明天皇の女御, 藤原順子の発願による古寺。恵運が開基。応仁の乱後荒廃。遺跡の詳細は不明。
大宅廃寺 (おおやけはいじ)	大宅山田ほか	奈良前期～ 平安時代前期	大宅中学校の校門を入ってすぐのところに石碑が建つ。中臣鎌足の山階寺説や大宅氏の氏寺説などがある。
勧修寺旧境内 (かじゅうじきゅうけいだい)	勧修寺西北出町 ほか	平安時代中期	寺院跡。山科出身の宇治郡大領, 宮道弥益の邸宅を寺にしたと伝える。井戸や土壌などを検出。
勧修寺庭園 (かじゅうじていえん)	勧修寺仁王堂町		醍醐の山地を借景にした平安時代以来からの由緒ある庭園。
元慶寺跡 (がんけいじあと)	北花山寺内町	平安時代	僧正遍昭創建, 花山天皇ご洛飾の地である元慶寺のもと境内地。現在は小堂が残るのみだが, 往時は街道の北, 山際であり, 六所明神が元慶寺の鎮守であった。
地藏寺跡 (じそうじあと)	竹鼻地藏寺南町	鎌倉時代	現在の渋谷街道と, 醍醐街道の辻より少し西, 北側にあったとされる廃寺。詳しいことは分からないが, 足利尊氏像や大石内蔵助の位牌などがあったと伝わる。
隨心院旧境内 (ずいしんいんきゅうけいだい)	小野御霊町	平安時代	正暦2年(991)に仁海が建立。
大日寺跡 (だいにちじあと)	勧修寺北大日町	平安時代前期～中期	醍醐天皇御母小野陵の北方。丘陵裾部の南斜面に立地していたが, 造成工事によって全壊した。
仏光寺舊跡 (ぶっこうじきゅうせき)	東野百拍子町	創建不明 1586 (天正14) 年 移転	1212 (建暦2) 年源海が流罪になり戻った親鸞のため創建した寺。当初興正寺と称したが, 東山渋谷へ移り後醍醐天皇から「阿弥陀仏光寺」の額を賜る。後に高倉に移った。市内には仏光寺通の名が残っている。
元屋敷廃寺 (もとやしきはいじ)	大塚	奈良時代後期	寺跡の詳細は不明。
山科本願寺跡 (やましなほんがんじあと)	西野様子見町など	1478 (文明10) 年	山科中央公園の敷地内, 山科川右岸に位置。土塁や濠をめぐらし城砦としての機能も備えていた。

## 神社,寺院,旧跡一覧

山科本願寺土塁跡 (やましなほんがんどるいあと)	西野様子見町など	1478 (文明10) 年	山科本願寺の多くの堂塔跡や町民の住宅跡が発掘され、それらを囲む土塁や堀などの形跡が残る。
-----------------------------	----------	---------------	--

### 邸宅跡

名 称	所 在	推定時期	特徴・記録・伝承など
人康親王山荘跡 (さねやすしんのう さんそうあと)	安朱馬場ノ東町など	平安時代前期	諸羽山南麓の諸羽神社付近に位置。人康親王は仁明天皇第四皇子で、859 (貞観元) 年に出家。
志賀直哉旧居跡 (しがなおやきゅうきょあと)	竹鼻立原町	大正時代末頃	志賀直哉は約1年半、四ノ宮川のほとりに住み、この地での体験をもとに「山科の記憶」「痴情」「晩秋」など一連の作品を生み出した。細い土橋、硝子戸、池庭のある、自然に囲まれた静かな一軒家であった。
山科本願寺南殿跡 (やましなほんがんど なんでんあと)	音羽伊勢宿町	1849 (延徳元) 年	山科本願寺南殿は、蓮如上人の隠居地として山科本願寺の東方に造営された。蓮如作庭の庭園跡や堀跡、土塁跡が残り、国の史跡となっている。

### 街道

名 称	所 在	推定時期	特徴・記録・伝承など
川田道 (かわたみち)	川田道街道域	奈良時代	貴族や僧侶の社寺墓陵参拝の道として発達。元慶寺、花山稻荷、折上稻荷、宮道列子墓を経て勸修寺へ。
京道 (きょうみち)	京道街道域	平安～江戸時代	大塚の住人が、京の都へ通う道、と名付けられた道。終点である大塚には、皇塚や天神社がある。
渋谷街道 (苦集滅道) (しぶたにかいどう くづめじ)	渋谷街道街道域	平安時代	六条通から東山を越える道。花山、厨子奥、談所の水を経て四ノ宮へと続く。平氏や鎌倉幕府が六波羅を拠点としたのは、山科を通るこの道が東国と都の六波羅を結んでいたからである。
滑石道 (すべりいしみち)	滑石道街道域	江戸時代	大石内蔵助の隠棲地から都方面への山越えの道。「冬には大石も足を滑らせたらう道」との名称由来説がある。古くからある道といわれ、平安京の羅城門へ通じる、外国使節を迎えるときに使われた、公式的なルートと考えられている。
東海道 (とうかいどう)	東海道街道域	奈良時代	平安時代には追分、走井を通る道筋が隆盛。江戸時代には、幕府と都をつなぐ最重要街道として発展した。
奈良街道 (古北陸道) (ならかいどう こほくりくどう)	奈良街道街道域	奈良時代	古くから北陸と畿内を結んだ街道。現在は大宅から大塚、追分を経て、東海道へ合流するが、奈良時代には、若宮八幡宮の前を通り、四ノ宮から滋賀県長等山、三井寺へと至る「小関越え」で大津へ向かうルートを利用した。

## 神社,寺院,旧跡一覧

西野道 (にしのみち)	西野道街道域	平安～江戸時代	渋谷街道の西野今屋敷町を起点に南へ。西宗寺の西側を通過して、南へ勤修寺に至る道筋。
妙見道 (みょうけんみち)	妙見道街道域	江戸時代	日ノ岡峠で東海道から南へ別れ、途中区間渋谷街道と合流し、さらに南東の妙見寺、天神社へと向かう道筋。

### 道標

名称	所在	推定時期	特徴・記録・伝承など
いなり山道標 (いなりやまどうひょう)	北花山大林町		僧正遍昭の墓から少し南、大石道への分岐点、左手ハイツ前の植え込みにある。西面に「右いなり山」、北面に「左大石屋敷」と記されている。
いまくまく八んおんみち道標 (いまくまかんのんみちどうひょう)	川田土仏	1685 (貞享2) 年	山科で2番目に古い道標。大石道に面して建つ。ここから西方へ、西野山からの滑石道に合流していたが、現在は新大石道で断たれ消失している。
いまくまく八んをん道道標 (いまくまかんのんみちどうひょう)	川田西浦町	1840 (天保11) 年	川田の町の中心にある。ここから西に向かう滑石越で今熊野観音寺への巡礼道を示す。北面に「右いまくまく八んをん道十八丁」、南面に「左いまくまみち」、西面に「すぐ御坊道」と記されている。
牛尾山道標 (うしおざんどうひょう)	音羽珍事町	1923 (大正12) 年	追分から奈良街道を大津方面に行くと高速度道路の手前、左側の民家の石垣にある。北面に「牛尾山道」とあり、以前は立てかけられていたものが修復された。
宇治道道標 (うじみちどうひょう)	大塚森町		奈良街道を音羽から大塚方面へ国道1号を渡った左側の民家門前にある。
追分、京津國道道標 (おいわけけいしんこくどうひょう)	小山松原畑町		京の田舎民具資料館の近くにあり、京都市が建てた比較的新しい道標。北面に「右追分、京津國道」、西面に「右醍醐、伏見方面 左牛尾山、醍醐山方面」と記されている。
追分、京津國道道標 (おいわけけいしんこくどうひょう)	小山小川町		四ノ宮方面からと音羽方面からの道が白石神社の手前で合流する三叉路南側に立っている。京都市が建てた。東面に「右追分、京津國道」、北面に「右音羽、醍醐、伏見方面、左牛尾山、高塚山、醍醐山方面」と記されている。
追分道標 (おいわけどうひょう)	髭茶屋屋敷町	1953 (昭和29) 年 再建	「みき八京みち」「ひだり八ふしみみち」「柳緑花紅」とあり、横に大津市と京都市の境界標示がある。『伊勢参宮名所図会』に、算盤・大津絵等を売る店、巡礼、駕籠など、にぎやかな街道風景が描かれている。現在の碑は3代目。
大石旧跡岩屋寺道標 (おおいしきゅうせきいわやじどうひょう)	西野山桜ノ馬場町	1908 (明治41) 年	滑石越の途中、伏見稲荷へ越える山道の反対側、ガードレールに沿って並ぶ3基の一番右。西面に標記され、東面に建立年月と施主が記されている。



神社,寺院,旧跡一覧

大石内蔵助旧跡道標 (おおいしくらのすけ きゅうせきどうひょう)	勸修寺仁王堂町	1843 (天保14) 年	勸修寺駐車場入口にある三本並んだ石碑の真ん中。東面に「北江すぐ大石内蔵助旧跡西野山并四拾七人位牌岩屋寺」、北面に建立年月、南面に施主「上京糸屋町銭屋八良兵衛」。岩屋寺への近道にある道標と同作者同年月建立。
大石神社これより東 (おおいしじんじゃ これよりひがし)	西野山桜ノ馬場町	1942 (昭和17) 年	滑石越え途中のガードレールに沿う3基の道標の真ん中。西面に「大石神社これより東…」と標記され、東面に建立年月と施主が記されている。
大石大夫閑居址道標 (おおいしだゆう かんきょあとどうひょう)	西野山桜ノ馬場町	1908 (明治41) 年	岩屋寺への参道登り口にある大きい方の石碑。東面に左二つ巴の紋付きで「大石大夫閑居址」と彫られている。ちなみに赤穂大石神社の紋は右二つ巴。仇討ち隠棲の意味を込めて逆になっている。
大石良雄山科の隠家道標 (おおいしよしお やましのなかくれが どうひょう)	西野山射庭ノ上町	1908 (明治41) 年	明治40年頃、当時の著名な小説家村上浪六ら堺の人々が多くの道標を建立した。西面に「右大石良雄山科の隠家」、北面に「左山科停車場みち」と記され、東南方向にあった旧東海道線山科停車場への道を示している。
折上神社参詣道 (おりがみじんじゃさんけいどう)	西野山桜ノ馬場町	1913 (大正2) 年	滑石越え途中のガードレールに沿う3基の道標の一番左。西面に「栗すのいなり折上神社参詣道是東」、東面に建立年月が記されている。
吉祥山安祥寺道標 (きっしょうざんあんしょうじ どうひょう)	御陵鳥向井町		安祥寺はここから北の疏水を越えた所。848 (嘉祥元年) 年、仁明天皇女御藤原順子が発願、入唐僧恵運を開山として創建された寺で『伊勢物語』にも登場する。
京道・滑石越・大仏道道標 (きょうみちすべりいしごえ だいぶつみちどうひょう)	勸修寺仁王堂町	1804 (文化元) 年	勸修寺駐車場入口にある三本並んだ石碑の北側。北面に「北すぐふしみふじの森」、南面に「南 右大津 是より一丁北西工行左京道 すべり石越大仏道」、東面に建立年月と施主「京講世話方」が記されている。
清水寺奥之院 牛尾山道道標 (きよみずでらおくのいん うしおざんみちどうひょう)	音羽稲芝町	1766 (明和3) 年	奈良街道を追分方面へ、国道1号に差し掛かる手前の辻。牛尾山道との別れになっており、西面に「清水寺奥之院牛尾山道」と記されている。明和年間建立の古い道標。
五条別れ道標 (ごじょうわかれどうひょう)	御陵中内町	1707 (宝永4) 年	東海道から薬科大学東門の道筋入口にあり渋谷越への分かれ道。北面には「右八三条通」、東面には「左八五条橋 ひがし六条大仏 にし今ぐまきよ水道」とあり、西面に「願主 沢村道範」、南面に建立年月が刻まれている。1987 (昭和62) 年、京都市登録史跡となった。

神社,寺院,旧跡一覧

小関越道標 (こぜきごえどうひょう)	北花山山田町	1822 (文政5) 年	大津市との境から東は緩い坂となっている。途中北側に常夜灯と大きい道標がある。「三井寺観音道」「小関越」「定飛脚問屋 京都江戸大阪 (商標) 三店等」とある。高さ約2.5メートル。
人康親王御墓参道道標 (さねやすしんのう おはかさんだうどうひょう)	四ノ宮泉水町		徳林庵地藏堂の飛脚印が付いた井戸の横にある。この参道は人康親王を開祖とする十禅寺のもので、その片隅に宮内庁人康親王御陵がある。
清瀧山安養寺・ 式内日向神社道標 (せいりゅうざんあんようじ・ しきないひむかいじんじゃ どうひょう)	北花山山田町		蹴上疏水の舟溜近く、三条通に面した石段を登って大神宮橋から山道を行った鳥居の側にある。神明は天照大神の御霊のこと。南面に「志んめいみち」、西面に「従是右神明道」と記されている。
天智天皇山科陵道標 (てんじてんのう やましなのみささぎ どうひょう)	御陵下御廟野町	1929 (昭和4) 年	元京阪御陵駅の東踏切側にあった。現在も煉瓦色の敷石に整備された一角に残されている。西面に標記され、東面には建立年月と大阪皇陵巡拝會が建立したと記されている。
東海道道標 (とうかいどうどうひょう)	安朱北屋敷町		元は東海道北側にあった和菓子店の店先東側に建っていた。現在も建て替わった建物の前にある。
後山階陵 ・輪王寺宮御墓参道道標 (のちのやましなりょう りんのうじのみやおはかさんだう どうひょう)	安朱稲荷山町	1929 (昭和4) 年頃	毘沙門堂前極楽橋側にある。川に沿った参道を行くと山科聖天があり、その背後に石灯籠が参道の両脇に美しく並ぶ輪王寺宮墓地がある。標記は南面。参道入口にもう1基あり標記は北面。
東六条今くま道道標 (ひがしろくじょう いまくまみちどうひょう)	御陵三蔵町	江戸時代	三条通五条別交差点より一本南の辻、薬科大学の門の向かい側駐車場の端にある。この東西の道は旧渋谷街道(東国路、苦集滅道、久々目路)で、汁谷越(滑谷越、瀧谷越)の峠に至る道。
毘沙門尊天 是より北江八町道標 (びしゃもんそんてんこれより きたへはっちょうどうひょう)	安朱南屋敷町	1822 (文政5) 年	毘沙門通を南へ向かい、旧東海道との三叉路南側にある。北面に標記されている。南面には建立年月と施主が記されている。
毘沙門堂是より北三町道標 (びしゃもんだうこれより きたさんちょうどうひょう)	安朱馬場ノ西町		毘沙門通を北へ向かい疏水を越えた安朱橋北詰西側にある。南面に標記され、西面には建立年月と施主が記されている。
伏見六ぢざう道標 (ふしみろくじざうどうひょう)	四ノ宮泉水町	1703 (元禄16) 年	四宮地藏堂の井戸前にある石碑。東面に「伏見六ぢざう・」南面に「南無地藏・(菩薩)」と記され、西面に施主、北面に建立年月が刻まれている。約300年以上前の石碑で、元はもう少し東の四宮の辻にあったと考えられる。

神社,寺院,旧跡一覧

本願寺山科両別院 是より←ひだりへ六丁道標 (ほんがんじやましな りょうべついん これよりひだりろくちょう どうひょう)	安朱中小路町	1909 (明治42) 年	山科駅の京阪電車踏切の北側東にある。北面に「本願寺山科両別院是より←ひだりへ六丁」とあるが、方向は全く違い、消されていた形跡がある。おそらく東海道と醍醐街道の辻辺りから移されたと考えられる。
本尊大聖不動明王 岩屋寺道標 (ほんぞんたいしょうぶどう みょうおういわやじどうひょう)	西野山桜ノ馬場町	1843 (天保14) 年	岩屋寺への近道の入口にある。標記は東面にあり、北面は「右上大石旧地 義士四十七人」。西面の年月、南面の施主ともに、勧修寺門前にある道標と同じ。
右かさんいなり道道標 (みぎかさんいなり みちどうひょう)	北花山山田町		亀の水不動尊の傍らに二本あるうちの小さい方。「かさんいなり」は現在の花山神社で稲荷振興が盛んな時に建てられたようだ。標記は北面にあり、南面には中川直次郎、亀山正七と二人の施主の名が入っている。
右明見道道標 (みぎみょうけんみち どうひょう)	北花山山田町		亀の水不動尊の傍らに二本あるうちの大きい方。大塚の明見さんへの近道として東海道からこの不動尊の裏から東南へ向かった。北面に「右明見道」南面に「二条講中」とある。
山科の隠れ家岩屋寺道標 (やましなのかくれがいわやじ どうひょう)	西野山桜ノ馬場町	1908 (明治41) 年	岩屋寺への参道登り口にある小さい方の石碑。東面に「右奥深き山科の隠れ家 岩屋寺」南面には「當寺寶物義士木像拝観」とある。
蓮如上人御塚道道標 (れんにょしょうにん おつかみちどうひょう)	西野大手先町	1743 (寛保3) 年	蓮如上人塚は山科中央公園の安祥寺川を挟んだ東にある。その正面参道を東へ、醍醐街道との辻、西北角にある。
蓮如上人御往生舊地道標 (れんにょしょうにん ごおうじょうきゅうち どうひょう)	西野今屋敷町	1797 (寛政9) 年 再建	渋谷街道と西野道のT字路東南角に建っている。西面に「右蓮如上人御往生舊地西宗寺道」北面に「是より二丁」と記されている。
蓮如上人南殿御舊地道標 (れんにょしょうにん なんでんごきゅうち どうひょう)	竹鼻四丁野町		醍醐街道と渋谷街道の交差点から50メートルほど南の辻、山科青少年活動センターの南側。西面に「是より二町東 蓮如上人南殿御舊地 夫よりすぐ大津道」と彫られている。
蓮如上人南殿御舊地 并両御坊ミチ道標 (れんにょしょうにん なんでんごきゅうちならびに りょうごぼうみちどうひょう)	音羽中芝町	江戸時代	京阪四宮駅からまっすぐ南へ若宮八幡宮を通り過ぎた突き当たり。字は浅く彫られて読みにくい。西面に「此のみちたひ人の為しらす」と建立の趣旨を明確に記している。

神社,寺院,旧跡一覧

石碑

名 称	所 在	推定時期	特徴・記録・伝承など
音羽水路紀功碑 (おとわすいるきこうひ)	音羽珍事町	1908 (明治41) 年	音羽病院の裏に音羽水路「紀功碑」がある。農業用水不足に対処するため疏水の水を利用、水路の開通に尽力した人々の功績を称える碑で、水路はその近くを通っている。1999 (平成11) 年に病院北側中央に移設されたが、見学しにくい場所になったため、2004 (平成16) 年に「紀功文」と現代語訳を記した説明パネルが新たに設置された。
旧東海道線山科駅跡碑 (きゅうとうかいどうせん やましなえきあとひ)	小野蚊ヶ瀬町	1981 (昭和56) 年	1921 (大正10) 年8月に現在の場所に移設されるまでは、旧東海道線は現名神高速道路に当たるところを走っていた。旧山科駅は山科川と名神高速道路の交わる辺りの東側、小野小学校北にあった。
旧東海道碑 (きゅうとうかいどうひ)	日ノ岡朝田町		東海道は天智天皇陵入り口を越えた辺りで、細い道を日ノ岡へと抜ける。両側に民家が立ち並ぶ日ノ岡峠にある光照寺を過ぎた辺り、右側に碑が立つ。江戸末期の『東海道分間延絵図』には、光照寺北側に「義経千本松」「高札場」などが記されているが、現在その跡はない。
旧舗石車石碑 (きゅうほせきくるまいしひ)	日ノ岡夷谷町		九条山のカーブ、旧東海道道との三叉路にある二本の轍。かつては街道に重い荷を積んだ牛車に備え車石が敷かれた。
京津国道改良工事記念碑 (けいしんこくどう かいりょうこうじきねんひ)	御陵封ジ山町	1933 (昭和8) 年	正面には「記念 京津国道改良工事 昭和八年三月竣工」、側面には長い轍の跡が見られ、また基壇にも深い轍の跡が刻まれた車石が利用されている。新国道は延長7,635メートル、総工費230万円。京津間の難所とされた日ノ岡、逢坂山両峠を削って勾配を緩やかにし、幅員も11メートルに拡大された。
修路碑 (しゅうろひ)	御陵封ジ山町	1877 (明治10) 年	碑文の大意は、京都三条から近江国堺までは往来困難で、街道改修は明治8年に起工、10年に完成、峠の道を一道一尺四寸低くした、というもの。
題目碑 (だいもくひ)	御陵封ジ山町		名号碑の隣にある。背面の碑文に「京津国道改修中、街道傍らに建てられていた碑の1つと思われる法華塔断片が発見されたので、これを基壇として昭和15年12月、小島愛之助(法華倶楽部創設者)及び有志により造塔供養を行った」とある。土台部分には多くの車石が使われている。

## 神社,寺院,旧跡一覧

日ノ岡峠人馬道碑 (ひのおかとうげじんばみちひ)	厨子奥花鳥町		「九条山」バス停から東山ドライブウェイの花鳥橋に上ると、向かい側民家の裏に碑が見える。高さ2.3メートルの石柱は、峠道の改修に尽力した木食正禪が建立したもので、「日岡峠人馬道」とあり、人馬道と車道が分けられていたことが分かる。この辺りから蹴上浄水場の間に、栗田口刑場があったようだ。
表徳碑 (牛馬牧場跡と東野救済) (ひょうとくひ)	東野八反田町 (西雲寺門前)	1825 (明治21) 年	寺町通姉小路角の薬種商「鳩居堂」4代当主熊谷蓮心は、種痘の普及、飢饉救済に尽力。東野村に牛馬放牧場を設け、年老いた牛馬を養った。また東野村民に援助し、碑はこの功績を顕彰する。
まちづくりの碑 (まちづくりのひ)	勸修寺東金ヶ崎町	1996 (平成8) 年	昭和44年に発見された縄文から室町にかけての複合遺跡、中臣遺跡の南端に位置する勸修寺公園西南隅に立つ。昭和47年設立の山科南部土地区画整理組合が立てたもので「周辺の無秩序な宅地開発を改善するため」との組合設立趣旨が刻まれている。
奴茶屋跡碑 (やっこぢやあとひ)	安朱棧敷町	江戸時代	射術の達人片岡丑兵衛は店先に兵器を飾り、つねに弓矢を携えて盗賊から旅人を守った (拾遺都名所図会)。
山階寺跡推定地碑 (やましなでらあとすいていちひ)	御陵大津畑町	7世紀後半	山階寺は藤原鎌足により創建された寺院。藤原氏の氏寺である興福寺の前身である。区内の所在地には諸説があるが、御陵大津畑町を中心とした地域であるとの説が有力となっている。
煉瓦工場跡碑 (れんがこうじょうあとひ)	御陵原西町	1886 (明治19) 年	鏡山・天智天皇陵を背景に、疏水建設に必要な煉瓦製造工場が御陵原西町一帯に設けられた。

## 地蔵・石仏

名 称	所 在	推定時期	特徴・記録・伝承など
足下地蔵 (仮称) (あしもとじぞう)	安朱堂ノ後町		疏水からさらに北へ毘沙門通の参道を行くと、右側に掘下がった水路があり、お地蔵さんは足下より低い、水路の石壁の小さな祠に収まっている。
安全地蔵 (あんぜんじぞう)	西野八幡田町		現在の渋谷街道と旧渋谷街道への別れ、南側にあり、かつて事故が多発したため通学する子供たちの安全を祈願して、地元の住民により祠が整備された。
おたつ地蔵 (おたつじぞう)	厨子奥尾ノ上町		知的障害を持った女性おたつさんをお奉りした祠。詳しいことは分からないが、移動しても何らかの理由で必ずこの地に戻ってくるという言い伝えを持つ。



神社,寺院,旧跡一覧

鏡山地蔵 (かがみやまじぞう)	御陵原西町		「山科砥ノ粉」の生産者である片山藤治郎氏が、地域の繁栄、町内の安全、子供達の健康と幸福を願って、元東山区栗田口の良恩寺にあったお地蔵さんを住職をお願いして譲ってもらったもの。昭和6年立秋の日、大きな荷車に乗せ、歩いて日ノ岡峠を超えて、原西町のこの地に安置した。以来、鏡山地蔵尊と呼び、地域住民の守り本尊として慕われている。
西栗栖野五体地蔵 (にしくるすのごたいじぞう)	勧修寺栗栖野町		化粧を施した石のお地蔵さんが五体並んでいる。
小山地蔵堂 (こやまじぞうどう)	小山小川町		小山の昔ながらの旧家前に立つ地蔵堂。
志賀直哉旧居跡地蔵 (しがなおや きゅうきよあとじぞう)	竹鼻立原町		志賀直哉が大正時代末頃に1年半ほど住んだとされる跡地に立つ祠。四ノ宮川の左岸に位置し、周囲にはソメイヨシノが植えられ、春には桜の名所となる。
四尊石仏 (しそんせきぶつ)	四ノ宮泉水町		徳林庵敷地内の東海道茶店跡には、古い時代の珍しい石仏がある。上部に阿弥陀三尊が三角形に並び、その下に挟まれるように地蔵を刻んだ四尊石仏で、隣には「行方不明であったお不動さんが、この家の購入した水屋の引き出しに入っていて戻ってきた」との言い伝えを持つ不動明王画像を祀っている。
白蛇の祠 (しろへびのほくら)	竹鼻竹ノ街道町		この地にあった護国寺移転の際、工事現場で白蛇が出て、粗雑に処分したところ、関係者の上層部に不幸があった。白蛇の祟りを鎮めるために建てられた。
厨子奥公会堂地蔵尊 (ずしおくこうかいどう じぞうそん)	厨子奥若林町		厨子奥公会堂の前にある地蔵堂。
厨子奥中筋地蔵 (ずしおくなかすじじぞう)	厨子奥中筋町		厨子奥公会堂から北、薬科大学方面の御陵市営住宅地の一面にある地蔵祠。
厨子奥矢倉地蔵 (ずしおくやぐらじぞう)	厨子奥矢倉町		厨子奥公会堂から、北、薬科大学方面すぐ左手にある地蔵。
扇子団地地蔵堂 (せんすだんちじぞうどう)	西野山射庭ノ上町		十条通りを少し北へ歩いた旧安祥寺川沿いの仏具・扇子団地にある地蔵堂。
大將軍地蔵 (たいしょうぐんじぞう)	四ノ宮大將軍町		道祖神塚への入り口近くにある地蔵祠。
道祖神塚 (どうそじんづか)	四ノ宮大將軍町		石仏を集めて作った塚。「山科郷竹ヶ鼻村史」に人康親王史跡周辺を「御宰坊」と呼んでいた記述があり、宰の神の庵と解すれば、琵琶法師によって道祖神人康親王の信仰が広められたとする説がある。

## 神社,寺院,旧跡一覧

徳林庵前地蔵 (とくりんあんまえじぞう)	四ノ宮南河原町		旧東海道と四ノ宮川の交差する橋のたもと南西側に立つ祠。祠は徳林庵ご住職の手作り。
中在家地蔵 (なかざいけじぞう)	榊辻中在家町		中在家町のマンション駐車場横にある横長型の立派な地蔵祠。6~7体の石仏が奉られている。
西野広見町地蔵 (にしのみろみちょうじぞう)	西野広見町		色々なところから出てきた地蔵を、地元の人たちの協力により、立派な一つの祠に安置して奉った。
寝転がり地蔵(仮称) (ねころがりじぞう)	四ノ宮中在寺町		1970(昭和45)年まであった疏水諸羽ダムにかかっていた橋の北詰に位置し、諸羽山頂巨岩群「白岩」への登山口右側に2体の石仏が半分土に埋まった状態で奉られている。
母子地蔵 (ははこじぞう)	安朱東海道町		第1疏水は1892(明治23)年に完成され、大津から京都へ人や物資を運搬する役目をしていて、毎日舟が通っていた。しかし、今のように安全設備がなかったので、誤って疏水に落ち、命を失う子供が何人か出た。当時船頭であった善兵衛という人が、何とかして子供の命を守るためにお地蔵を建立しようと申し出、当時の安朱北部の住人20余名が相談し雄松(近江舞子)の石を使って名工甚助さんが、精魂込めて1903年に完成された。
東金ヶ崎地蔵 (ひがしかながさきじぞう)	勸修寺東金ヶ崎町		勸修寺公園北側の道の西端、交差点の西側にある祠。
山科地蔵 (やましなじぞう)	四ノ宮泉水町	平安時代	平安時代の阿木像地蔵菩薩立像。『都名所図絵』に、地蔵の作者は小野篁で、平清盛の命により京都の出入り口である七道の辻に西光法師が建立したものとある。平安時代には6体ずつ据えられたというが、1665(寛文5)年に伏見大善寺の住職が広めた「京の六地蔵めぐり」の一つにも数えられ、8月22・23日の地蔵盆には、大勢の参拝者でにぎわう。
山科豊川稲荷野地蔵 (やましなとよかわいなりのじぞう)	御陵大岩町		疏水第2トンネルの東北岸、豊川稲荷への登り口に据えられた4体の地蔵と祠。

## 湧水・井戸

名 称	所 在	推定時期	特徴・記録・伝承など
御足摺水 (おあしずりのみず)	四ノ宮泉水町	鎌倉時代	盲目となった人康親王は、常陸守であった昔に思いを馳せ、くやし涙をこぼしながら足で土を摺ると、泉が湧き出たという。
亀の水(量救水 木食寺梅香庵) (かめのみず)	日ノ岡ホッパラ町	1736(天文元)年	日ノ岡六軒町や九体町の東海道改修工事を木食上人が請け負うことになり、梅ヶ畑の至芳庵をこの峠に遷した。

神社,寺院,旧跡一覧

セリ田 (せりた)	栂辻池尻町		山科に唯一残るセリ田。かつては生水で、現在はポンプで汲み上げた澄んだ水で育つ。
だんじょの水 (だんじょのみず)	竹鼻竹ノ街道町	1690 (元禄3) 年	水不足に苦しむ竹鼻西部村民の強い願いが護国寺の協力を得て、地下水路から水を引く画期的工事を完成させた。
山科川の川底湧水 (やましながわのかわそこゆうすい)	東野舞台町・栂辻封シ川町		山科区中央部を南へと流れる山科側の十条通りより少し北、栂辻西市営住宅や山科中学校の西側の川底には湧水が点在する。
ゆうなぎの水 (ゆうなぎのみず)	栂辻池尻町	2003 (平成15) 年	世界水フォーラム開催を機に名称を募り、選考の結果、234名の応募の中から1点、栂辻に湧くという意味の「ゆうなぎ (湧栂) の水」に決定した。
蓮如上人お指図の井 (れんにょしょうにんおさしずのい)	音羽伊勢宿町	1489 (延徳元) 年	光照寺の約100メートル西にある井戸。音羽の里は行基菩薩の故事から、水が出ない伝説があった。蓮如が杖で指し示した場所を人々が掘ると、こんこんと水が湧き出で、音羽の里唯一の用水になったと伝わる。
六兵衛池公園の湧水 (ろくべえいけこうえんのゆうすい)	厨子奥尾上町		幕末から明治にかけての陶芸家、京焼窯元清水家6代当主、六兵衛の別荘の跡地でかつては池があった。埋め立てる際、公園内に湧水池が整備された。

自然地形・水系

名称	所在	推定時期	特徴・記録・伝承など
安祥寺川 (あんしょうじがわ)	安祥寺川流域		山科盆地の真北、頂点にあたる山間から流れる川。上流には自然の中で水遊びができる河原やスポットが点在。
牛尾山 (うしおざん)	小山長尾など		音羽山山中にある法蔵寺の山号を取って、この辺りの登山道を牛尾山ハイキングコースと呼んだ。ふもとのダム付近や、法蔵寺より少し下にある「桜の馬場」と呼ばれる場所でバーベキューやキャンプが楽しめる。
音羽川 (おとわがわ)	音羽川流域		伏見区醍醐陀羅谷の高塚山東麓から牛尾山中を蛇行して流れ、小山地区からは西に転じて山科を貫流する。
音羽の滝 (おとわのたき)	大宅奥山	奈良時代	牛尾登山道を分け入ってしばらく行くと、2つめの橋に差し掛かる。右手には軽快に落ちる滝からの涼やかな風が吹き降ろす。マイナスイオンたっぷりのスポット。

神社,寺院,旧跡一覧

<p>音羽山 (おとわやま)</p>	<p>小山長尾など</p>		<p>やましな盆地の北東、滋賀県と山科区の境にある、逢坂山以南、醍醐以北あたりの山々の通称。その山頂は標高593メートル。中腹には、清水寺発祥の起源となった法厳寺がある。縁起に登場する金生水や経岩のほか、小山に住んでいた弓の名手、内海浪介景忠の大蛇退治伝説にまつわるミステリースポットが点在し日本有数の霊山として知られる。音羽山頂上付近の展望台を経て石山方面へ抜けるハイキングコースとして親しまれている。</p>
<p>カエル岩 (かえるいわ)</p>	<p>大宅奥山</p>		<p>牛尾登山道の入り口から近く、のぞき込んだ川筋に、ひときわ大きな岩の塊がある。ちょうどカエルがじっと座っているように見えるので、こう呼ばれた。</p>
<p>鏡山 (かがみやま)</p>	<p>陵大岩町など</p>		<p>ふもとに天智天皇陵がある。妻であった額田王が亡くなったときに詠んだ挽歌に「やすみしし我ご大君のかしこきや 御陵仕ふる山科の鏡の山に～」と登場する。ラクダのこぶのような、向かい合った同形の山の形を指して、こう呼んだといわれる。</p>
<p>旧安祥寺川 (きゅうあんしょうじがわ)</p>	<p>旧安祥寺川流域</p>		<p>旧安祥寺川は、山科盆地の西部に位置し、鏡山西方の谷に源を発し、南へ流下して岡川や西野山川等を集め、山科川に注いでいる。現在の安祥寺川は東海道と交差して、まっすぐ南に流れているが、かつては、そのすぐ北側で、西へと流れを変え、この旧安祥寺川に注いでいた。ゆえにこの名がついている。</p>
<p>四ノ宮川 (しのみやがわ)</p>	<p>四ノ宮川流域</p>		<p>大津藤尾の山間から流れ出る小川に端を発し、小関越えの道筋とほぼ平行してやましな盆地へと注ぐ。古くは、平家物語にも「四宮河原」の名で登場し、今よりも川幅が相当広く「四ノ宮川原町」や「南河原町」などの町名が残っている。</p>
<p>蛇ヶ淵 (じゃがふち)</p>	<p>大宅奥山など</p>	<p>鎌倉時代</p>	<p>鎌倉時代に牛尾山法厳寺への登山道に人を襲う大蛇が出て困った際、ふもとの集落小山に住む内海浪介景忠が弓にて大蛇を射留めた場所。大蛇は川面で昼寝をしていた。</p>

## 神社,寺院,旧跡一覧

銚子の滝（聴呪の滝） （ちょうしのたき ちょうじゅのたき）	大宅奥山など	奈良時代	清水寺の奥之院「牛尾観音」の名で知られる法厳寺への登山道の途中にある滝。「銚子」は徳利で、そのくびれた口が宝珠に見立ててあるところから、神聖な滝を意味する。別名「聴呪の滝」とも呼ばれ、鮮烈に落ちる滝の音が呪文を唱えているように聞こえるからという説や、いつの頃からか脇の岩肌に丸い銅板がはめられており、その昔、滝の前に置き去りにした赤児の泣く声が母親の耳をついて離れず、僧侶に願い出て、その鎮魂を銅板に託したという話などが伝わる。
琵琶湖疏水 （びわこそすい）	琵琶湖疏水流域	1890（明治23）年	琵琶湖の水を京都に運ぶ水路。当時の京都府知事、北垣国道の主導の下で、明治18年から23年にかけて建設された。北垣は大津～京都間の測量に嶋田道生を、土木技師には若手の田邊朔郎を起用した。飲料水だけでなく、灌漑用水、防火用水、工業用水、舟運と多岐にわたり利用され、世界で2番目の水力発電所や日本初の市電を生み出す契機となった。
諸羽山 （もろはやま）	四ノ宮柳山町など		四ノ宮の北側に位置し、その美しい三角形から、古来より神の宿る山「神奈備」と称された。地理的には柳山と呼ぶが、諸羽神社の縁起に「もろはの山」として登場し、諸羽神社、もしくは四宮社のご神体であったと思われる。山頂近くに「白岩」と呼ばれる巨岩群がある。
山科川 （やましながわ）	山科川流域		東部山間治水水利水ダムから牛尾観音の西側を流れ、小山周辺から名神高速道路を横切り市街地へ。西御坊の辺りで大きくカーブし、山科中央部を南へ流れる。中州を利用した勤修寺公園をはじめ、親水施設や散策道が整備され、春は桜が彩る花見の散歩のコースになる。

## 建造物

名称	所在	推定時期	特徴・記録・伝承など
花山天文台 （かさんてんもんだい）	北花山大峰町	1929（昭和4）年	45cm及び18cmの屈折望遠鏡と70cmのシーロスタット太陽望遠鏡がある。近代天文台の先駆けとなった。



## 神社,寺院,旧跡一覧

新山科浄水場 (しんやましな じょうすいじょう)	勸修寺丸山町	1970 (昭和45) 年	勸修寺から高速道路を挟んだ北側の山上にある。施設能力は1日に 36万2000立方メートル。この浄水場は、京都市最大の浄水場で、琵琶湖から取水しているほか、宇治川からも一部取水をしている。
厨子奥公会堂 毘沙門天像 (ずしおくこうかいどう びしゃもんでんぞう)	厨子奥	鎌倉時代末期	西方にあった毘沙門堂の本尊だったが、堂焼失後永正寺(廃寺)に移され厨子奥村の総鎮守として安置された。
日本初の鉄筋コンクリート橋 (にほんはつの てっきんこんくりーとばし)	日ノ岡 (琵琶湖疏水 第三隧道東口)	1903 (明治36) 年	疏水第三トンネルの日ノ岡側にある全長7.3m、幅1.5mの橋。三条大橋の試作として架けたものとされる。
萬寿亭橋ギャラリー自在 (まんじゅていたちばな ぎやらりーじざい)	小野御霊町	1560 (永禄3) 年頃	織田信長が活躍した戦国時代に建てられた随心院寺侍の御坊と蔵。御坊は食事処として、蔵はギャラリーとなっている。

今回の一覧において掲載対象としたのは、調査趣旨に賛同いただいた神社、寺院に限るとともに、旧跡については文献調査などにより把握できた範囲内としている。

また、主に管理者からの回答を基に取りまとめたため、客観的に立証されていない事実や逸話もあるので、留意することが必要である。

平成 20 年 3 月発行

発	行	京都橘大学文化政策学部 (平成 20 年 4 月より「現代ビジネス学部」) 〒 607-8175 京都市山科区大宅山田町 34 TEL 075-571-1111 FAX 075-574-4149
		山科区役所区民部総務課 〒 607-8511 京都市山科区榎辻池尻町 14-2 TEL 075-592-3066 FAX 075-502-1639
編集・制作		REPEPP 〒 607-8015 京都市山科区安朱山川町 2 TEL 075-581-5414 FAX 075-581-5414